



(題字 時澤 貢 学長)

第411号
(平成11年 3月号)



▲ 平成10年度富山大学学位記授与式：平成11年 3月25日（木）富山市芸術文化ホール

目 次

学 長 告 辞			
◆ 平成10年度学位記授与式を挙行	3	◆ 水素同位体科学研究センター長に渡辺教授を選出	42
関係法令	5	◆ 環日本海地域研究センター長に丹羽経済学部教授を選出	43
学 内 規 則		◆ 大学改革に関する図書館講演会を開催	43
◆ 理学部規則の一部改正	6	◆ 退職者を囲む懇談会を開催	44
◆ 大学院教育学研究科規則の一部改正	7	◆ 大学改革についての講演会を開催	44
◆ 大学院経済学研究科規則の一部改正	8	◆ ファカルティ・デベロップメント講演会及び研修会を実施	44
◆ 教育学部規則の一部改正	10	◆ 海外渡航者	45
◆ 学則の一部改正	11	◆ 外国人来訪者	46
◆ 留学生センター規則の制定	28	職 員 消 息	
◆ 水素同位体科学研究センター規則の制定	30	◆ 住所変更	46
◆ 国際交流委員会規則の一部改正	31	◆ 改姓	46
諸 会 議	32	主 要 行 事	47
人 事 異 動	33	資 料	
学 事		◆ 平成11年3月卒業者数	50
◆ 学位取得者	40	◆ 平成11年3月修了者数	51
◆ 平成11年度入学者選抜個別学力検査（後期日程）を実施	41	◆ 平成10年度大学院研究科修了者一覧	52
学 内 諸 報		◆ 平成10年度大学院工学研究科（博士後期課程）博士論文審査合格者一覧	61
◆ 留学生センター長に塩澤工学部教授を選出	42		



▲ 附属小学校卒業式（平成11年3月16日）



▲ 後輩の祝福

学 長 告 辞

平成10年度学位記授与式を盛大に挙行

—学部卒業生1,450人，大学院修了生272人，合計1,722人が本学を巣立つ—

平成10年度富山大学学位記授与式が，平成11年3月25日(木)午前11時30分から富山市芸術文化ホールにおいて挙行されました。

式に先立ち，本学フィルハーモニー管弦楽団の演奏が行われました。

授与式は，学長から各学部及び大学院各研究科代表者にそれぞれ学位記が授与された後，学長から告辞があり，厳かに終了しました。



▲ 学位記の授与

学位記授与式学長告辞（全文）



▲ 告辞をする時澤学長

本学所定の課程を終え，本日めでたく学士，修士，そして博士の学位を授与された，留学生48名を含めた総数1,722名の諸君，卒業おめでとうございます。教職員一同心からお慶び申し上げます。また，この日を心待ちにしておられましたご家族の方々のお慶びは，さぞかしと推察いたします。

さて，顧みますと諸君が入学して以来，世界及び日本の社会情勢は著しく変化いたしました。連日の新聞紙上の見出しを4年前のそれと比べて，いかに日本の社会が変わり，問題や視点が異なるか驚異に値します。21世紀を間近にした日本経済は，欧米諸国へ追いつき，追い越せの段階から，バブル経済の崩壊や急激な円高などの後遺症で依然として停滞感から抜けきれなく，基幹産業は国際競争の激化に息切れ状態にあると思われま

す。私たちの未来は，少子化，高齢化の進展，情報化とグローバル化への対応などさまざまな課題を抱えています。だからこそ過去の失敗や挫折から学び，よりよいスローガンとコンセプトのもとに懸命な知恵の創造をはからねばなりません。我が国のこれまでの千年の歴

史は「封建主義」の時代から「国民国家」の時代をたどり，今や「福祉国家」の時代とされています。21世紀に向けては新しい国家観をどのように描くかという問題にも関心が集まっています。

これからの十年，百年について考えてみますと，グローバル化はさらに大きな流れとなり，地球規模の課題がたくさん出てきてこれに立ち向かう協力体制の構築が必要になります。国際的な倫理観にもとづき，共存共栄，共同運営の仕組みをあらゆる民族間で考えるべきでしょう。

本学は，地方の国立大学として戦後の教育改革の中で新学制になってから50年の歴史を有し，我が国の社会に定着しこれまで重要な役割を果たしてきました。

それぞれの地域にある国立大学は高等教育を受ける機会を拡大し，地域の発展を支える基盤づくりのためにも多くの人材の育成に努めてきました。また，地域社会に住む学生教職員と共に，本学はその地域の一員として定着し，学術講演会や各種学会の開催，地域企業諸団体等の共同研究，審議会等への参加などを通して学術，文化，教育の普及と産業の振興に多大の役割を果たしてきました。

近年，大学を取り巻く情勢は厳しく，社会の変革とともに大学の在り方が問い直され，大学はいかなる時代であろうとも時代の要請に的確に応え，常にグローバルな視点に立って社会の学術，文化発展に寄与できる責任を

果たすべく自己啓発・自己改革に努めているところであり
ます。

冒頭でも申し上げましたように、日本にとっては、これからの10年は、大変厳しい時代を迎えると思います。それは、戦後日本もかつてはそうであったように、アジアでも欧米で確立した近代文明を導入した現在、通貨危機を克服し、持続的な成長を遂げたいと願っています。しかし、アジアの社会国家は帰属意識が強く、一体となって改革に挑めば、いずれは再生し、21世紀は「アジアの時代」といわれるようになるでしょう。それはアジアは、学問・文化の発祥の地であり、優れた資質とよりよい思想やシステムづくりの可能性が高いからであります。

富山大学においても環日本海の地域に貢献する大学を目指して学術文化交流を推進していきます。さらに、社会の活力を維持するためには、外国人にとっても魅力ある富山県、日本の再生が必要であり、住みたくなるような環境システムの整備が必要です。戦後、日本の成功を導いてきた様々な制度や慣習のなかにも見直すべきものは多いのではないのでしょうか。歴史的に日本は、非常に同質的な社会であり、異なる文化や価値観に対する寛容度と理解度が低いという欠点があるのではないのでしょうか。これからは絶えずグローバルな視点に立ち、異文化との刺激的な接触をはかり、お互い懸命に知恵を絞り新しい価値の創造を通じて、日本や世界の未来づくりにチャ

レンジすることを期待します。ここに日本人一人一人の知恵の結集があり、一人一人の協調的な工夫を忘れてはいけません。

幸い、本学は人文・社会系と自然科学系を有する総合大学であります。一般に、創造力を有する人材は文化系と理学系に多いと言われていています。例えば芸術家や科学者は、一人一人の個性が非常に大切な仕事なので絶えず新しいものへの挑戦で創造に努めています。本学で学んだ諸君はスポーツ、文化サークルを通じて、このような学問分野の垣根を払い協調性を具備されたことと思います。

私は、新世紀を拓く日本として、これからの科学技術や企業経営、学校教育を通じての文化の向上においても大きな業績を示していくには、本日卒業される諸君のような有能で知的な労働力が、豊かな協調性、創造性を発揮し、国際人として、一人一人が志を高くもって組織と調和し、人に誇れる技能を身につけていく努力が大切であります。胸を張って進んで行って下さい。

最後になりましたが、どうぞくれぐれも健康に留意されることを祈念して諸君へのはなむけの言葉といたします。

平成11年3月25日

富山大学長 時澤 貢

関 係 法 令**(法 律)**

- 恩給法等の一部を改正する法律(7)
(平11. 3. 31 官報号外第60号)
- 国立学校設置法の一部を改正する法律(21)
(平11. 3. 31 官報号外特第7号)

(政 令)

- 予算決算及び会計令の一部を改正する政令(45)
(平11. 3. 17 官報号外第49号)
- 国立学校設置法施行令の一部を改正する政令(89)
(平11. 3. 31 官報号外第60号)
- 大学等における技術に関する研究成果の民間事業者への移転の促進に関する法律施行令の一部を改正する政令(114)(同上)
- 日本育英会法施行令の一部を改正する政令(131)
(平11. 3. 31 官報号外特第7号)

(省 令)

- 大学の設置等の認可の申請手続等に関する規則の一部を改正する省令(文部4)(平11. 3. 19 官報号外第51号)
- 学校教育法施行規則等の一部を改正する省令(文部5)(平11. 3. 23 官報第2590号)
- 学校教育法施行規則の一部を改正する省令(文部7)
(平11. 3. 29 官報号外第58号)
- 国立学校設置法施行規則の一部を改正する省令(文部12)(平11. 3. 31 官報号外第61号)
- 国立大学の学科及び課程並びに講座及び学科目に関する省令の一部を改正する省令(同13)(同上)
- 学校教育法施行規則等の一部を改正する省令(同19)(同上)

(規 則)

- 人事院規則9-17(俸給の特別調整額)の一部を改正する人事院規則(人事院9-17-72)(平11. 3. 1 官報第2575号)
- 人事院規則8-18(採用試験)の一部を改正する人事院規則(人事院8-18-13)(平11. 3. 2 官報第2576号)
- 人事院規則15-14(職員の勤務時間, 休日及び休暇)の一部を改正する人事院規則(人事院15-14-8)(平11. 3. 9 官報第2581号)

(告 示)

- 専門士の称号の付与に関し文部大臣が専門士と称することができる専修学校専門課程として個別に認めた件(文部40)(平11. 3. 2 官報第2576号)
- 平成11年度大学入学資格検定の施行期日等を定める件(文部44)(平11. 3. 9 官報第2581号)
- 大学の設置等の認可申請書その他の書類の様式及び提出部数を定める件の一部を改正する件(文部49)(平11. 3. 19 官報号外第51号)
- 大学の設置等の認可申請手続等に関する規則附則第4項及び第5項が適用される場合の第3条第1項の認可申請書その他の書類の様式及び提出部数を定める件の一部を改正する件(同50)(平11. 3. 19 官報号外第51号)
- 小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律施行規則に掲げる施設に準ずる施設を指定する件の一部を改正する件(文部52)(平11. 3. 23 官報第2590号)

学 内 規 則

富山大学理学部規則の一部改正

富山大学理学部規則の改正理由

専門科目のカリキュラムを見直し、教育内容の充実を図るため、所要事項を改める。

富山大学理学部規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

平成11年3月19日

富山大学長 時澤 貢

富山大学理学部規則の一部を改正する規則

富山大学理学部規則（昭和52年5月16日制定）の一部を次のように改正する。

別表を次のように改める。

別表Ⅰ（第3条第2項関係）

化 学 科

専門基礎科目	単位数		専攻科目	単位数	
	必修	選択		必修	選択
微分積分学Ⅰ		2	基礎物理化学Ⅰ		2
微分積分学Ⅱ		2	基礎物理化学Ⅱ		2
線形代数学		2	無機化学		2
応用数学基礎		2	化学平衡学		2
物理学序説Ⅰ		2	化学反応学		2
物理学序説Ⅱ		2	構造化学		2
物理学概論Ⅰ		2	量子化学		2
物理学概論Ⅱ		2	化学熱力学		2
生物学序説Ⅰ		2	触媒化学		2
生物学序説Ⅱ		2	分子分光学		2
生物学概論Ⅰ		2	分子物性学		2
生物学概論Ⅱ		2	遷移金属化学		2
地球科学序説Ⅰ		2	構造溶液化学		2
地球科学序説Ⅱ		2	材料科学		2
地球科学概論Ⅰ		2	化学工学		2
地球科学概論Ⅱ		2	物理化学特論Ⅰ		1
生物圏環境科学概論Ⅰ		2	物理化学特論Ⅱ		1
生物圏環境科学概論Ⅱ		2	無機化学特論		2
放射線基礎学		2	分析化学特論		2
基礎物理学実験		1	物理化学実験		3
基礎生物学実験		1	無機分析化学実験		3
基礎地球科学実験		1	プログラミング実習		1
基礎生物圏環境科学実験		1	基礎有機化学Ⅰ		2
基礎化学実験		1	基礎有機化学Ⅱ		2
			脂脂肪酸Ⅰ		2
			芳香族化学Ⅰ		2
			脂脂肪酸Ⅱ		2
			構造有機化学		2
			反応有機化学		2
			有機立体化学		2
			生物物質化学		2

芳香族化学Ⅱ		2
高分子化学		2
生化学		2
有機化学特論Ⅰ		1
有機化学特論Ⅱ		1
有機化学実験	6	
水環境化学	2	
環境化学演習		2
環境化学計測		2
計測化学特別講義		1
科学英語		4
化学演習		*
化学特別講義		*
卒業論文	12	

*印を付した化学演習、化学特別講義の単位数は、必要に応じて定める。

地 球 科 学 科

専門基礎科目	単位数		専攻科目	単位数	
	必修	選択		必修	選択
微分積分学Ⅰ		2	地球圏物理学序説		2
微分積分学Ⅱ		2	一般地質学		2
線形代数学		2	基礎地球力学		2
応用数学基礎		2	鉱物学		2
物理学序説Ⅰ		2	プレートテクトニクス		2
物理学序説Ⅱ		2	環境化学概論		2
物理学概論Ⅰ		2	地球化学		2
物理学概論Ⅱ		2	環境同位体学		2
化学序説Ⅰ		2	洋書講読	4	
化学序説Ⅱ		2	科学英語		2
化学概論Ⅰ		2	地球惑星物理学		2
化学概論Ⅱ		2	地球流体力学		2
生物学序説Ⅰ		2	雪氷学概論		2
生物学序説Ⅱ		2	岩石磁気学		2
生物学概論Ⅰ		2	雪氷物理学		2
生物学概論Ⅱ		2	応用地球物理学		2
生物圏環境科学概論Ⅰ		2	雲物理学		2
生物圏環境科学概論Ⅱ		2	基礎地球力学演習		2
地球科学序説Ⅰ		2	層序学		2
地球科学序説Ⅱ		2	古生物学		2
地球科学概論Ⅰ		2	岩石学		2
地球科学概論Ⅱ		2	列島地質		2
放射線基礎学		2	地殻進化学		5
基礎物理学実験		1	火山学		2

基礎化学実験	1	鉱床学	2
基礎生物学実験	1	地質学演習	2
基礎生物圏環境科学実験	1	地震学	2
		海洋底物理学	2
		自然災害アセスメント	2
		構造地質学	2
		海洋地質学	2
		海域地震テクトニクス	2
		地球科学実験	4
		層序学実験	3
		岩石鉱物学実験	3
		地球物理学実験	3
		雪氷学実験	3
		地球計測演習	2
		地質学巡検Ⅰ	1
		地質学巡検Ⅱ	1

地質学巡検Ⅲ	3
地質調査法実習	8
地球圏物理学実習	1
海域地球科学実習	2
地球圏物理学特論	10
地球進化学特論	10
地球科学特別講義	*
卒業論文	12

*印を付した地球科学特別講義の単位数は、必要に応じて定める。

附 則

- この規則は、平成11年 4 月 1 日から施行する。
- 平成10年度以前の入学者については、なお従前の例による。

富山大学大学院教育学研究科規則の一部改正

富山大学大学院教育学研究科規則の改正理由

- 本学の他の研究科における履修の取扱いの明文化を図るため、所要の改正を行う。
- 授業科目を一部変更し教育内容の充実を図るため、所要の改正を行う。

富山大学大学院教育学研究科規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

平成11年 3 月19日

富山大学長 時 澤 貢

富山大学大学院教育学研究科規則の一部を改正する規則

富山大学大学院教育学研究科規則（平成 6 年 3 月31 日制定）の一部を次のように改正する。

第 5 条に次の 2 項を加える。

- 指導教官が必要と認めるときは、他の研究科の授業科目を履修することができる。
- 前項の規定により学生が修得した単位は、4 単位まで第 1 項に規定する自由選択科目の単位とすることができる。

別表第 1（第 3 条関係）（1）学校教育専攻 学校教育専修中

教育心理学	教育心理学特論Ⅰ	2
	教育心理学特論演習Ⅰ	2
	教育心理学特論Ⅱ	2
	教育心理学特論演習Ⅱ	2
発達心理学	発達心理学特論Ⅰ	2
	発達心理学特論演習Ⅰ	2
	発達心理学特論Ⅱ	2
	発達心理学特論演習Ⅱ	2
学校経営	学校経営特論	2

教育心理学	教育心理学特論	2
	生徒指導特論演習	2
	学習心理学特論	2
	心理検査法特論演習	2
発達心理学	発達心理学特論	2
	発達心理学特論演習	2
	発達臨床心理学特論	2
	学校カウンセリング特論演習	2
学校経営	学校経営特論	2
	学校経営特論演習	2

同表（2）教科教育専攻 ⑦技術教育専修中

技術科教育	技術科教育研究	2
	技術科教育特論Ⅰ	2
	技術科教育特論演習Ⅰ	2
	技術科教育特論Ⅱ	2
	技術科教育特論演習Ⅱ	2

技術科教育	技術科教育研究	2
	技術科教育特論Ⅰ	2
	技術科教育特論演習Ⅰ	2
	技術科教育特論Ⅱ	2
	技術科教育特論演習Ⅱ	2
	情報技術学特論Ⅰ	2
	情報技術学特論演習Ⅰ	2
	情報技術学特論Ⅱ	2
情報技術学特論演習Ⅱ	2	

改める。

附 則

- この規則は、平成11年 4 月 1 日から施行する。
- 平成10年度以前の入学者については、なお従前の例による。

富山大学大学院経済学研究科規則の一部改正

富山大学大学院経済学研究科規則の改正理由

授業科目の増設及び見直しを行い、教育・研究内容の充実を図るため、所要事項を改める。

富山大学大学院経済学研究科規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

平成11年3月19日

富山大学長 時 澤 貢

富山大学大学院経済学研究科規則の一部を改正する規則

富山大学大学院経済学研究科規則（平成3年3月30日制定）の一部を次のように改正する。

別表を次のように改める。

別表

各専攻授業科目及び単位数

専 攻	授 業 科 目	単位数	備 考	
地 域 ・ 経 済 政 策 専 攻	理論経済学	現代経済のモデル分析特殊研究	2	○印の授業科目のうち1科目を必修とする。
	○現代経済のモデル分析演習	8		
	経済変動と安定化特殊研究	2		
	○経済変動と安定化演習	8		
	政治経済学特殊研究	2		
	○政治経済学演習	8		
	経済哲学特殊研究	2		
	○経済哲学演習	8		
	経済学史特殊研究	2		
	○経済学史演習	8		
	情報資本主義分析特殊研究	2		
	○情報資本主義分析演習	8		
	理論経済学特殊研究	2		
	○理論経済学演習	8		
	数理経済学特殊研究	2		
	○数理経済学演習	8		
	経済理論特殊研究	2		
	○経済理論演習	8		
	比較経済論	西洋経済史特殊研究	2	
	○西洋経済史演習	8		
日本経済史特殊研究	2			
○日本経済史演習	8			
	環境勘定監査論特殊研究	2		

政策科学	○環境勘定監査論演習	8
	農業構造と地域開発特殊研究	2
	○農業構造と地域開発演習	8
	比較社会学特殊研究	2
	○比較社会学演習演習	8
	経済発展と産業政策特殊研究	2
	○経済発展と産業政策演習	8
	東南アジアの経済開発特殊研究	2
	○東南アジアの経済開発演習	8
	中国経済特殊研究	2
○中国経済演習	8	
応用経済学	経済政策と地域産業構造論特殊研究	2
	○経済政策と地域産業構造論演習	8
	資源計画特殊研究	2
	○資源計画演習	8
	社会政策特殊研究	2
	○社会政策演習	8
	計量経済学特殊研究	2
	○計量経済学演習	8
	労働のマクロ経済分析特殊研究	2
	○労働のマクロ経済分析演習	8
労働のミクロ経済分析特殊研究	2	
○労働のミクロ経済分析演習	8	
農業政策特殊研究	2	
○農業政策演習	8	
金融論特殊研究	2	
○金融論演習	8	
財政学特殊研究	2	
○財政学演習	8	
公共経済学特殊研究	2	
○公共経済学演習	8	
金融制度と経済構造特殊研究	2	

		○金融制度と経済構造演習	8			管理科学	意思決定論特殊研究	2	
		経済計画理論特殊研究	2				○意思決定論演習	8	
		○経済計画理論演習	8				オペレーションズ・リサーチ特殊研究	2	
		国際経済学特殊研究	2				○オペレーションズ・リサーチ演習	8	
		○国際経済学演習	8				情報システム特殊研究	2	
		外国経済書研究	2				○情報システム演習	8	
企 業 経 営 専 攻	経営学	財務管理論特殊研究	2	○印の授 業科目の うち1科 目を必修 とする。		基礎法	数理計画法特殊研究	2	
		○財務管理論演習	8				○数理計画法演習	8	
		経営組織論特殊研究	2				生産管理論特殊研究	2	
		○経営組織論演習	8				○生産管理論演習	8	
		経営史特殊研究	2				経営情報処理特殊研究	2	
		○経営史演習	8				ヨーロッパ法思想史特殊研究	2	
		企業人材開発論特殊研究	2				○ヨーロッパ法思想史演習	8	
		○企業人材開発論演習	8				政治学特殊研究	2	
		財務会計論特殊研究	2				○政治学演習	8	
		○財務会計論演習	8				英米公法特殊研究	2	
		会計ディスクロージャー特殊研究	2				○英米公法演習	8	
		○会計ディスクロージャー演習	8				行政法特殊研究	2	
		制度会計論特殊研究	2				○行政法演習	8	
		○制度会計論演習	8				政治史特殊研究	2	
		経営管理論特殊研究	2				○政治史演習	8	
		○経営管理論演習	8				憲法特殊研究	2	
		人事戦略特殊研究	2				○憲法演習	8	
		○人事戦略演習	8				憲法基礎理論特殊研究	2	
		比較経営論特殊研究	2				○憲法基礎理論演習	8	
		○比較経営論演習	8				経済刑法特殊研究	2	
		国際経営論特殊研究	2				○経済刑法演習	8	
		○国際経営論演習	8				比較刑事法特殊研究	2	
		会計情報開示論特殊研究	2				○比較刑事法演習	8	
		サービス経営教育論特殊研究	2				税法特殊研究	2	
		○サービス経営教育論演習	8				○税法演習	8	
		応用経営	マーケティング論特殊研究		2		民事法	民法特殊研究	2
			○マーケティング論演習		8			○民法演習	8
			リスク・マネジメント特殊研究		2			比較民法特殊研究	2
		○リスク・マネジメント演習	8			○比較民法演習	8		
		管理会計論特殊研究	2			不動産法特殊研究	2		
		○管理会計論演習	8			○不動産法演習	8		
		流通論特殊研究	2			債権法特殊研究	2		
		○流通論演習	8			○債権法演習	8		
		多国籍企業論特殊研究	2			金融取引法特殊研究	2		
		○多国籍企業論演習	8			○金融取引法演習	8		
		交通論特殊研究	2			民事手続法特殊研究	2		
		○交通論演習	8			○民事手続法演習	8		

企業関係法	企業会計法特殊研究	2
	○企業会計法演習	8
	企業内容開示制度と法特殊研究	2
	○企業内容開示制度と法演習	8
	経済法特殊研究	2
	○経済法演習	8
	商取引法特殊研究	2
	○商取引法演習	8
	企業組織法特殊研究	2
	○企業組織法演習	8
	労働法特殊研究	2
	○労働法演習	8

	金融法特殊研究	2
	○金融法演習	8
	国際商事仲裁法特殊研究	2
	○国際商事仲裁法演習	8
	外国経営書研究	2
備考 この表に掲げる授業科目のほか、特別研究を設けることができる。		

附 則

- この規則は、平成11年4月1日から施行する。
- 平成10年度以前の入学者については、なお従前の例による。

富山大学学則の一部改正

富山大学学則の改正理由

- 教育学部の課程改組に伴い、所要事項を改める。
- 富山大学に学内共同教育研究施設として、富山大学留学生センター及び富山大学水素同位体科学研究センターが設置されるため、所要事項を改める。
- 平成11年度から、工学部の第3年次編入学定員が改訂されることに伴い、所要事項を改める。
- 平成11年3月31日付け文高大第113号文部省高等教育局長通知に基づき、平成11年度から理学部及び工学部の学生定員の臨時増募を減ずるため、所要事項を改める。

富山大学学則の一部を改正する学則を次のとおり制定する。
平成11年3月31日

富山大学長 時 澤 貢

富山大学学則の一部を改正する学則

富山大学学則（昭和59年3月12日全部改正）の一部を次のように改正する。

第2条第1項中「総合教育課程」を「生涯教育課程、情報教育課程」に改める。

第9条第1項中「水素同位体機能研究センター」を削り、「総合情報処理センター」の下に「留学生センター 水素同位体科学研究センター」を加える。

第15条第2項中「水素同位体機能研究センター」を削り、「及び総合情報処理センター」を「総合情報処理センター、留学生センター及び水素同位体科学研究センター」に改める。

別表第1を次のように改める。

別表第1

学 部	学 科 等	入学定員	新増入学額	収容定員
人文学部	人 文 学 科	65人		260人
	国際文化学科	50		200
	言語文化学科	80		320
	計	195		780
教育学部	学校教育教員養成課程	100		400
	生涯教育課程	40		160
	情報教育課程	30		120
	計	170		680
経済学部	経 済 学 科			
	昼間主コース	155		620
	夜間主コース	20		80
	経 営 学 科			
	昼間主コース	120		480
	夜間主コース	20		80
	経 営 法 学 科			
	昼間主コース	100		400
夜間主コース	20		80	
	計	435		1,740

理学部	数 学 科	50		200
	物 理 学 科	40		160
	化 学 科	35		140
	生 物 学 科	35		140
	地 球 科 学 科	40		160
	生 物 圏 環 境 科 学 科	30		120
	各学科共通(3年次編入学分)		10	20
	計	230	10	940
工学部	電気電子システム工学科	90		360
	知能情報工学科	80		320
	機械知能システム工学科	90		360
	物質生命システム工学科	155		620
	各学科共通(3年次編入学分)		20	40
	計	415	20	1,700
合 計	1,445	30	5,840	

備考 経済学部の「昼間主コース」とは、主として昼間に授業を行うコースを、「夜間主コース」とは、主として夜間に授業を行うコースをいう。

附 則

- この学則は、平成11年4月1日から施行する。
- 富山大学学則の全部を改正する学則(昭和59年3月12日)の一部を次のように改正する。
附則第3項を削る。
- 別表第1に定める収容定員は、平成11年度から平成13年度までは、次のとおりとする。

学 部	学 科 等	平成11年度	平成12年度	平成13年度
人文学部	人 文 学 科	270人	265人	260人
	国 際 文 化 学 科	190	200	200
	言 語 文 化 学 科	330	325	320
	計	790	790	780

教育学部	学校教育教員養成課程	400	500	450
	生涯教育課程	40	80	120
	情報教育課程	30	60	90
	計	470	640	660
経済学部	経 済 学 科			
	昼間主コース	620	620	620
	夜間主コース	80	80	80
	経 営 学 科			
	昼間主コース	480	480	480
	夜間主コース	80	80	80
経済学部	経 営 法 学 科			
	昼間主コース	400	400	400
	夜間主コース	80	80	80
	計	1,740	1,740	1,740
理学部	数 学 科	206	204	202
	物 理 学 科	166	164	162
	化 学 科	149	146	143
	生 物 学 科	149	146	143
	地 球 科 学 科	150	160	160
	生 物 圏 環 境 科 学 科	120	120	120
	各学科共通(3年次編入学分)	20	20	20
	計	960	960	950
工学部	電気電子システム工学科	284	379	373
	知能情報工学科	252	332	326
	機械知能システム工学科	294	389	378
	物質生命システム工学科	469	624	620
	各学科共通(3年次編入学分)	10	20	20
	計	1,309	1,744	1,717
合 計	5,269	5,874	5,847	

- 平成11年3月31日における教育学部の総合教育課程については、平成11年3月31日に当該課程に在学する者が当該課程に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。

富山大学教育学部規則の一部改正

富山大学教育学部規則の改正理由

教育学部の改組及び教育職員免許法等の一部改正に伴い、所要事項を改める。

富山大学教育学部規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

平成11年3月29日

富山大学長 時 澤 貢

富山大学教育学部規則の一部を改正する規則

富山大学教育学部規則（昭和27年4月18日制定）の一部を次のように改正する。

第2条の見出しを「（系及び専攻）」に改め、同条第2項を次のように改める。

- 2 生涯教育課程に次の専攻を置く。
 (1) 発達臨床専攻 (2) 生涯スポーツ専攻
 (3) 人間環境専攻

第2条に次の1項を加える。

3 情報教育課程に次の専攻を置く。

- (1) 教育情報システム専攻
 (2) マルチメディア芸術専攻

第4条を次のように改める。

第4条 教養科目及び共通基礎科目の履修は、富山大学における教養科目及び共通基礎科目履修規則の定めるところによる。専門科目の履修は、別表Ⅱから別表Ⅵ

に示すとおりとする。ただし、学校教育教員養成課程の学生は、次の科目を必ず修得しなければならない。

（教養原論）

日本国憲法 2単位

（保健体育科目）

健康スポーツ 1単位

健康・スポーツ論又は健康・スポーツ演習 1単位

（情報処理科目又は言語表現科目）

情報処理 2単位

第10条を次のように改める。

（転学部、転課程及び転専攻）

第10条 転学部、転課程及び転専攻（以下「転学部等」という。）を願いだした者については、選考の上、許可することができる。

第11条第3項中「専攻（コース）」を「課程又は専攻」に改める。

別表Ⅰから別表Ⅵを次のように改める。

別表Ⅰ

卒業に必要な単位数

学校教育教員養成課程

専攻		A 群			B 群			C 群			D 群			E 群			
授業科目の区分																	
教養科目	教養原論	人文科学系	2	6	2	2	6	2	2	6	2	2	6	2	2	6	2
		社会科学系	2			2			2			2					
		自然科学系	2			2			2			2					
		総合科目	4			4			4			4					
計		18			18			18			18			18			
科共通基礎科目	外国語科目	8 (2カ国語各4)															
	保健体育科目	2			2			2			2			2			
	情報処理科目	2			2			2			2			2			
	言語表現科目	2			2			2			2			2			
小計		30			30			30			30			30			
専門科目	学部共通科目 (別表Ⅱ参照)	4			4			4			4			4			
	教科 (別表Ⅴ・Ⅵ参照)	8			6			4			10~19			20			
	教職 (別表Ⅲ参照)	41			35			33			23			29			
	教科又は教職 (別表Ⅵ参照)	6			6			0			0			4			
	は教職 (別表Ⅲ参照)	4			4			4			4			4			
	専攻科目 (別表Ⅵ参照)	10			10			23			23			10			
特別研究	6			6			6			6			6				
小計		79			71			74			70			77			
自由選択		25			33			30			34~25			27			
合計		134			134			134			134			134			

A群：学校教育教員養成課程 教育学，学校心理学専攻並びに国語教育，社会科教育，数学教育，理科教育，家政教育，音楽教育，美術教育及び保健体育専攻の小学校主免

B群：学校教育教員養成課程 幼児教育専攻

C群：学校教育教員養成課程 障害児教育専攻の小学校主免

D群：学校教育教員養成課程 障害児教育専攻の中学校主免

E群：学校教育教員養成課程 英語教育，技術教育専攻並びに国語教育，社会科教育，数学教育，理科教育，家政教育，音楽教育，美術教育及び保健体育専攻の中学校主免

備考

- 1 学校教育教員養成課程の学生は、教養科目及び共通基礎科目の履修に際し、日本国憲法（2単位）、健康スポーツ（1単位）、健康スポーツ論（1単位）又は健康・スポーツ演習（1単位）、情報処理（2単位）を必ず修得しなければならない。
- 2 D群の教科及び自由選択の単位数は、専攻科目により異なる。
- 3 自由選択に教養科目及び共通基礎科目の単位を10単位まで含むことができる。

生涯教育課程、情報教育課程

課程・専攻 授業科目の区分		生涯教育課程			情報教育課程		
		発達臨床専攻 人間環境専攻 生涯スポーツ専攻	教育情報システム専攻 マルチメディア芸術専攻				
教養科目	人文科学系	2	6	2	2	6	2
	社会科学系	2			2		
	自然科学系	2			2		
	総合科目	4		4			
計		18			18		
共通基礎科目	外国語科目	8 (2カ国語各4)			8 (2カ国語各4)		
	保健体育科目	2			2		
	情報処理科目	2			2		
	言語表現科目						
小計		30			30		
専門科目	学部共通科目 (別表Ⅱ参照)	4			4		
	専攻科目 (別表Ⅵ参照)	52			52		
	特別研究	6			6		
	小計	62			62		
自由選択		32			32		
合計		124			124		

備考 自由選択に教養科目及び共通基礎科目の単位を10単位まで含むことができる。

別表Ⅱ

学部共通科目

授業科目	開設単位	学校教育教員養成課程 選必	生涯教育課程		情報教育課程	
			選必	選択	選必	選択
教育臨床	2	2	2		2	
生涯学習と地域社会	2	2	2		2	
現代社会とスポーツ	2	2	2	2	8	2
芸術と人間	2	2	2		2	
教育メディア演習	2	2	2		2	2
人権教育論	2	2		2		2
国際理解	2	2		2		2
環境教育論	2	2		2		2
男女共同参画社会論	2	2		2		2
計	18	4	2	2	2	2
			4		4	

備考 「人権教育論」、「国際理解」、「環境教育論」及び「男女共同参画社会論」は、別表Ⅲ教職に関する科目の第5欄の総合演習の科目として取り扱う。

別表Ⅲ

教職に関する科目

学校教育教員養成課程

教職に関する科目	授業科目	開設単位	A 群			B 群			C 群		
			必修	選必	選択	必修	選必	選択	必修	選必	選択
第2欄 教職の意義等に関する科目	教職と教育	2	2			2			2		
第3欄 教育の基礎理論に関する科目	教育哲学	2		2	} 4		2	} 4		2	} 4
	西洋教育史	2		2			2			2	
	日本教育史	2		2			2			2	
	教育心理学	2	2			2			2		
	発達心理学	2			2			2			2
	学習心理学	2			2			2			2
	教育社会学	2		2	} 6		2	} 6			2
	学校経営	2		2			2			2	
教育行政	2		2			2			2		
学級集団心理学	2		2			2			2		
	教科の指導法等 (別表Ⅳ参照)		20					14			
	道徳教育論	2	2					2			

第4欄	教育課程及び指導法に関する科目	特別活動論	2	2				2		
		教育課程論	2			2		2		2
		学習指導	2			2		2		2
		教育工学	2			2		2		2
		保育内容の指導法等 (別表VI参照)					20			
生徒指導, 教育相談及び進路指導等に関する科目	生徒指導論 (教育相談及び進路指導を含む。)	4	4					4		
	幼児の理解と相談	2				2				
第5欄	総合演習	総合演習 (学部共通科目より修得)	(2)	(2)			(2)		(2)	
第6欄	教育実習	教育実習(小)	7	5					5	
		教育実習(中)	7							
		教育実習(高)	3							
		教育実習(幼)	7				5			
		子どもとのふれあい体験	2			2			2	2
合 計				37	4		31	4	31	2
				41			35		33	
教科又は教職(教職分)					4			4		4

備考 教育実習(小), (中), (高)及び(幼)の単位数には, 事前及び事後の指導1単位を含む。

教職に関する科目	授業科目	開設単位	D 群			E 群			
			必修	選必	選択	必修	選必	選択	
第2欄	教職の意義等に関する科目	教職と教育	2	2			2		
第3欄	教育の基礎理論に関する科目	教育哲学	2		2	} 2		2	} 4
		西洋教育史	2		2			2	
		日本教育史	2		2			2	
		教育心理学	2	2			2		
		発達心理学	2			2			2
		学習心理学	2			2			2
		教育社会学	2			2		2	} 2
		学校経営	2			2		2	
		教育行政	2			2		2	
学級集団心理学	2			2		2	} 6		
第4欄	教育課程及び指導法に関する科目	教科の指導法等 (別表IV参照)		4			8		
		道徳教育論	2	2			2		
		特別活動論	2	2			2		
		教育課程論	2			2		2	
		学習指導	2			2		2	
		教育工学	2			2		2	
生徒指導, 教育相談及び進路指導等に関する科目	生徒指導論 (教育相談及び進路指導を含む。)	4	4			4			
	幼児の理解と相談	2							
第5欄	総合演習	総合演習 (学部共通科目より修得)	(2)	(2)			(2)		
第6欄	教育実習	教育実習(小)	7				5		
		教育実習(中)	7	5					
		教育実習(高)	3						
		教育実習(幼)	7						
		子どもとのふれあい体験	2			2			2
合 計				21	2		25	4	
				23			29		
教科又は教職(教職分)					4			4	

別表IV

教科の指導法等に関する科目
学校教育教員養成課程

授業科目	開設単位	A群		C群		D群	E群
		必修	必修	選択	選択	必修	必修
教育課程と方法	2	2	2			2	2
国語科教育法(初等)	2	2					
社会科教育法(初等)	2	2					
算数科教育法(初等)	2	2					
理科教育法(初等)	2	2					
生活科教育法(初等)	2	2					
音楽科教育法(初等)	2	2	2				
図画工作科教育法(初等)	2	2	2				
家庭科教育法(初等)	2	2					
体育科教育法(初等)	2	2	2				
国語科教育法(中等)	6				2	6	1
社会科教育法(中等)	6				2	6	1
数学科教育法(中等)	6				2	6	1
理科教育法(中等)	6				2	6	1
音楽科教育法(中等)	6				2	6	1
美術科教育法(中等)	6				2	6	1
保健体育科教育法(中等)	6				2	6	1
技術科教育法(中等)	6				2	6	1
家庭科教育法(中等)	6				2	6	1
英語科教育法(中等)	6				2	6	1
地理歴史科教育法	4						
公民科教育法	4						
書道科教育法	4						
計	92	20	2	4	8	4	8

別表V

1 小学校の教科に関する科目

教科	授業科目	開設単位	A群			C群	
			必修	選択	選択	必修	選択
国語	各専攻別表VIの◎の科目			2	2		
社会				2			
算数				2			
理科				2			
家庭				2			
生活	生活科	2	2				
音楽	ソルフェージュ ピアノ奏法	2		2		2	
図画工作	図画工作	2		2		2	
体育	小学校体育	2		2		2	
計			2	4	2	2	2

備考1 上記単位数については、自専攻以外から修得すること。
2 国語については、書法I又は書法II 1単位を含むこと。

2 幼稚園の教科に関する科目

教科	授業科目	開設単位	B群	
			必修	選択
国語	子どもと言語表現	2		2
算数	子どもと数量	2		2
生活	生活科	2	2	
音楽	ソルフェージュ	2		2
	ピアノ奏法			
	子どもと音楽表現	2		2
図画工作	図画工作	2		2
	子どもと造形	2		2
体育	小学校体育	2		2
計			2	4

別表VI

専攻科目

1 学校教育教員養成課程

(1) 学校教育系

① 教育学

授業科目	開設単位	教育学専攻	
		必修	選択
教育哲学	2		2
西洋教育史	4		2
日本教育史	4		2
学校経営	2		2
教育制度	2		2
教育行政	2		2
教育法規	2		2
教育社会学	4		2
社会教育	2		2
教育調査	2		2
教育課程論	4		2
学習指導	4		2
授業研究	2		2
教育工学	2		2
教育学特別講義	4		2
教育学演習	4	4	
特設科目			
計	46	4	6

備考1 専攻科目は、別表IIIの教職に関する科目として履修した授業科目以外のものから履修するものとする。
2 「教育又は教職」の教科分6単位は、別表VIの各教科の専攻科目中◎印の科目で取得すること。

② 学校心理学

授 業 科 目	開 設 単 位	学 校 心 理 学 専 攻	
		必 修	選 択
児 童 心 理 学	2		2
青 年 心 理 学	2		2
教 授 心 理 学	2		2
学 級 の 人 間 関 係	2		2
教 育 臨 床 心 理 学	2		2
学 校 カ ウ ン セ リ ン グ	2		2
教 育 統 計	2		2
性 格 心 理 学	2		2
教 育 心 理 学 実 験 I	1	1	
教 育 心 理 学 実 験 II	1	1	
教 育 心 理 学 演 習	2	2	
発 達 心 理 学 演 習	1	1	
心 理 学 研 究 法	1	1	
教 育 心 理 学 特 別 講 義	2		2
発 達 心 理 学 特 別 講 義	2		2
特 設 科 目			
計	26	6	4
		10	
特 別 研 究		必 修 6 単 位	

備考 「教育又は教職」の教科分6単位は、別表VIの各教科の専攻科目中◎印の科目で取得すること。

③ 幼児教育

専 門 科 目 区 分 等	授 業 科 目	開 設 単 位	幼 児 教 育 専 攻	
			必 修	選 択
幼 児 教 育 理 論	幼 児 教 育 学 概 論	2	2	
	幼 児 心 理 学 概 論	2	2	
	幼 児 教 育 学 演 習	2	1	
	幼 児 心 理 学 演 習	2	1	
	幼 児 心 理 学 実 験	2	2	
	幼 児 臨 床 心 理 学	2		2
	幼 児 教 育 史	2		2
	家 庭 教 育 論	2		2
	幼 児 心 理 学 特 別 講 義	2		2
	教育課程一般に関する科目	幼 児 教 育 課 程 論	2	2
保 育 内 容 に 関 する 科 目	保 育 内 容 総 論	2	2	
	子 ども と 健 康 I (保 健 衛 生)	2	2	
	子 ども と 健 康 II (運 動)	1	1	
	子 ども と 人 と の か か わ り	2	2	
	子 ども と 環 境 と の か か わ り	2	2	
	子 ども と 言 葉	2	2	
	子 ども と 表 現 I (総 合)	1	1	
	子 ども と 表 現 II (音 楽)	2	2	
	子 ども と 表 現 III (美 術)	2		2
	保 育 内 容 特 別 演 習	2		2
保 育 内 容 特 別 講 義	2		2	
指導法に関する科目	指 導 法 (保 育 方 法) の 研 究	2	2	
特 設 科 目				
計		42	26	2
			30	
特 別 研 究			必 修 6 単 位	

備考 「教科又は教職」の教科分6単位は、別表Vの2の科目から取得すること。

(2) 障害児教育系

障害児教育

専 門 科 目 区 分 等	授 業 科 目	開 設 単 位	障 害 児 教 育 専 攻	
			必 修	選 択
教 育 の 基 礎 理 論 に 関 する 科 目	障 害 児 学 概 論	2		2
	障 害 児 教 育 原 論	2	2	
	精 神 遅 滞 児 教 育 概 論	2	2	
	障 害 児 学 演 習	2		2
	障 害 児 教 育 演 習	2		2
	精 神 遅 滞 児 教 育 演 習	2		2
	障 害 児 教 育 特 別 講 義	2		2
心 身 に 障 害 の ある 幼 児 ， 児 童 又 は 生 徒 の 心 理 ， 生 理 及 び 病 理 に 関 する 科 目	障 害 児 精 神 保 健 学	2		2
	障 害 児 心 理 学	2	2	
	精 神 遅 滞 児 心 理 学	2	2	
	障 害 児 病 理 学	2	2	
	障 害 児 生 理 ・ 心 理 演 習 I	2		2

	障害児生理・心理演習Ⅱ	2		2
	障害児心理・病理特別講義	2		2
心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	精神遅滞児教育課程論	2	2	
	障害児教育指導法	2	2	
	精神遅滞児心理診断実習	2	2	
	障害児教育研究法	2		2
	障害児教育指導法演習	2		2
	障害児教育指導法特別講義	2		2
心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育実習	精神遅滞児教育実習	5	3	
特設科目				
計		45	19	4
特別研究		必修6単位		
		23		

(3) 言語・社会系

① 国語教育

専科区分等	授業科目	開設単位	国語教育専攻				障害児教育専攻	
			〔小〕		〔中〕		〔中〕	
			必修	選択	必修	選択	必修	選択
国語学	国語史	4		4		4		4
	国語学各論	8		8		8		8
	国語学演習	12		12	2	10		12
	*国語表現論	2	2		2		2	
	◎国語学概論	2		2				2
	国語学特別講義	4		4		4		4
国文学	◎日本文学史	8	2	6	2	6	2	6
	日本文学各論Ⅰ(古典)	6		6	2	4		6
	日本文学各論Ⅱ(近代)	6		6		6		6
	日本文学講読演習Ⅰ(古典)	6		6	1	5		6
	日本文学工学演習Ⅱ(近代)	6		6	1	5		6
	文学概論	2		2		2		2
	日本文学特別講義	4		4		4		4
漢文学	◎中国文学史	4	2	2	2	2	2	2
	◎漢文学概論	4	2	2	2	2	2	2
書道	書道史	4		4	2	2		4
	*書道各論	4		4		4		4
	◎書法Ⅰ(楷書)	6	1	5	1	5	1	5
	◎書法Ⅱ(行書)	6	1	5	1	5	1	5
	書法Ⅲ(草書)	3		3		3		3
	書法Ⅲ(かな)	3		3		3		3
	書法Ⅲ(篆隸)	3		3		3		3
	書道特別講義	4		4		4		4
国語科教育	国語科教育概論	2		2		2		2
	国語科教育各論	4		4		4		4
	国語科教育演習	4		4		4		4
特設科目								
計		121	8	8	20	14	8	2
特別研究		必修6単位			34		10	
		16						

備考1 ◎印は、小学校の教科に関する科目を兼ねる。

*印の授業科目のうち

「国語表現論」は《「音声言語」及び「文章表現」に関するものを含む》科目である。

「書道各論」は《「書論」及び「鑑賞」を含む》科目である。

2 教科又は教職(教科分)の単位の取扱い

〔小〕6単位：専攻科目16単位に含まれている。

〔中〕4単位：専攻科目34単位に含まれている。

② 英語教育

専 門 科 区 分 等	授 業 科 目	開 設 単 位	英 語 教 育 専 攻		障 害 児 教 育 専 攻	
			〔 中 〕			
			必 修	選 択	必 修	選 択
英 語 学	英 語 音 声 学 I	2	2			2
	英 語 音 声 学 II	2		2		
	英 文 法 I	2	2			2
	英 文 法 II	2		2		
	英 語 史	2		2		2
	英 語 学 演 習	4	1	3		2
	英 語 学 講 読	4	1	3		2
言 語 学 概 論	2		2			
英 米 文 学	英 米 文 学 概 論	2	2			2
	英 文 学 史	2		2		
	米 文 学 史	2		2		
	英 米 文 学 演 習	4	1	3		2
	英 米 文 学 講 読 I	4	1	3		2
英 米 文 学 講 読 II	6	2	4		2	
英 語 コミュニ ケー シ ョ ン	英 会 話 I (オーラルコミュニケーション)	4	2	2	1	1
	英 会 話 II (オーラルコミュニケーション)	4	1	3		1
	英 作 文 I	4	2	2	1	1
	英 作 文 II	4	1	3		1
比 較 文 化	異 文 化 理 解 と 外 国 事 情	2	2			2
英 語 科 教 育	英 語 教 育 各 論	2		2		
	英 語 教 育 演 習	2		2		
特 設 科 目	英 語 科 特 別 講 義	8		8		
計		68	20	14	4	6
			34		10	
特 別 研 究			必 修 6 単 位			

備考1 教科又は教職(教科分)の単位の取扱い

〔中〕4単位：専攻科目34単位に含まれている。

2 副免で英語2種を取る場合は、障害児教育と同じ科目を履修すること。

③ 社会科教育

専 門 科 区 分 等	授 業 科 目	開 設 単 位	社 会 科 教 育 専 攻												障 害 児 教 育 専 攻	
			〔 中 〕													
			〔 小 〕		共 通		歴 史		地 理		法 律・政 治・ 社 会・経 済		〔 中 〕			
			必 修	選 択	必 修	選 択	必 修	選 択	必 修	選 択	必 修	選 択	必 修	選 択	必 修	選 択
日 本 及 外 国 史	◎日 本 史 学 概 論	2	2		2										2	
	日 本 史 学 各 論 I	2			2		2		●2				2			
	日 本 史 学 各 論 II	2						2		2			2			
	日 本 史 学 演 習 I	4		▲4			2		2		4		4			
	日 本 史 学 演 習 II	4					2		2		4		4			
	東 洋 史 学	2						4		2		2		2		
	◎西 洋 史 学 概 論	2	2			2									2	
	西 洋 史 学 各 論 I	2			2		2			●2				2		
	西 洋 史 学 各 論 II	2							2		2			2		
	西 洋 史 学 演 習	4		▲4			2		2		4		4			
	史 学 概 論	2							2		2		2		2	
	考 古 学	2							2		2		2		2	

地理学 (地誌を含む。)	◎地理学総論 I	2	2	} 4	2										2	
	◎地理学総論 II	2	2		2											
	◎地誌学 I	4	2		2				2		2		2	2		
	地誌学 II	4				2			2	●2	2	4				
	人文地理学各論 I	2				2					2	2				
	人文地理学各論 II	2							2		2	2				
	人文地理学各論 III	2							2		2	2				
	人文地理学各論 IV	2							2		2	2				
	自然地理学各論 I	2			2						2	2				
	自然地理学各論 II	2							2		2	2				
	地 図 学	2							2		2	2				
	地理学演習	4		▲4					4	2	2	4				
	地理学実験	4							4	2	2	4				
地理学巡検	2								2		2					
法学、 政治学	◎法学概論(国際法を含む。)	2	▽2	2											2	
	憲 法	2						2		2	■2				2	
	法律学各論	2						2		2		2	2		2	
	法律学演習	4		▲4				4		4	□2	2	2		2	
	◎政治学概論 I(国際政治を含む。)	2	▽2	2											2	
	政治学概論 II	2						2		2	■2				2	
	政治学各論 I	2						2		2		2	2		2	
	政治学各論 II	2						2		2		2	2		2	
政治学演習	4		▲4				4		4	□2	2	2		2		
社会学、 経済学	◎社会学概論 I	2	▽2	2											2	
	社会学概論 II	2						2		2	■2				2	
	社会学各論 I	2						2		2		2	2		2	
	社会学各論 II	2						2		2		2	2		2	
	社会学各論 III	2						2		2		2	2		2	
	社会学演習	4		▲4				4		4	□2	2	2		2	
	◎経済原論 I(国際経済を含む。)	2	▽2	2											2	
	経済原論 II	2						2		2	■2				2	
	経済史	2						2		2		2	2		2	
	経済学各論 I	2						2		2		2	2		2	
経済学各論 II	2						2		2		2	2		2		
経済学演習	4		▲4				4		4	□2	2	2		2		
哲学、 倫理学、 宗教学、 心理学	哲 学	2			2										2	
	倫 理 学	2			2										2	
	宗 教 学	2						2		2		2	2		2	
	心 理 学 概 論	2														
	社会心理学	2														
社会科教育	社会科教育演習(地理・歴史)	2						2		2		2				
	社会科教育演習(公民)	2						2		2		2				
	社会科特別講義(地理・歴史)	4						4		4		4				
	社会科特別講義(公民)	4						4		4		4				
特設科目																
計		4	12	22	2			6	4	6	2	2	6	4	8	6
		140	16	24			34		34		34		14			
特別研究							6									
必修							6									
単位																

備考1 ◎印は、小学校の教科に関する科目を兼ねる。

2 ▽印のうちから、いずれか2科目(4単位)を修得するものとする。

▲印のうちから、いずれか1科目(4単位)を修得するものとする。

●印のうちから、いずれか1科目(2単位)を修得するものとする。

■印のうちから、いずれか2科目(4単位)を修得するものとする。

□印のうちから、いずれか1科目(2単位)を修得するものとする。

3 欄内の「選必」は選択必修のこと。

4 教科又は教職(教科分)の単位の取扱い

[小] 6単位：専攻科目16単位に含まれている。

[中] 4単位：専攻科目34単位に含まれている。

(4) 自然・生活系

① 数学教育

専 門 科 目 区 分 等	授 業 科 目	開 設 単 位	数 学 教 育 専 攻				障 害 児 教 育 専 攻	
			〔 小 〕		〔 中 〕		〔 中 〕	
			必 修	選 択	必 修	選 択	必 修	選 択
代 数 学	◎線 形 代 数 学	4	2	2	2	2	2	
	代 数 学 I	4		2	2			
	代 数 学 II	2				2		
幾 何 学	◎集 合 と 位 相	2	2		2		2	
	幾 何 学 I	4		4	2	2		
	幾 何 学 II	2					2	
解 析 学	◎解 析 学 I	4	2	2	4		2	
	解 析 学 II	4		2		2		
	関 数 解 析 学	2					2	
確 率 論 統 計 学	統 計 学	2	2		2		2	
	確 率 論	2		2		2		
コ ン ピ ュ ー タ	計 算 機 論	2		2		2		2
	情 報 基 礎 論	2		2		2		2
応 用 数 学	計 算 機 論	2		2		2		2
	情 報 基 礎 論	2		2		2		2
	応 用 数 学	4					4	
数 学 科 教 育	数 学 科 教 育 各 論	2					2	
	数 学 特 別 講 義	8					8	
特 設 科 目								
計		56	8	8	14	6	8	2
特 別 研 究			必 修 6 単 位				10	

備考1 *印を含めて修得するものとする。

2 ◎印は、小学校の教科に関する科目を兼ねる。ただし、線形代数学は、前半2単位のみとする。

3 教科又は教職（教科分）の単位の取扱い

〔小〕6単位：専攻科目16単位に含まれている。

〔中〕4単位：専攻科目34単位に含まれている。

② 理科教育

専 門 科 目 区 分 等	授 業 科 目	開 設 単 位	理 科 教 育 専 攻				障 害 児 教 育 専 攻
			〔 小 〕		〔 中 〕		〔 中 〕
			必 修	選 択	必 修	選 択	必 修
物 理 学	◎一 般 物 理 学 I	2	2		2		2
	一 般 物 理 学 II	2		2	2		
	一 般 物 理 学 III	2		2		2	
	物 理 学 各 論 I	2				2	
	物 理 学 各 論 II	2				2	
	物 理 学 各 論 III	2				2	
	物 理 学 各 論 IV	2				2	
	物 理 学 各 論 V	2				2	
	物 理 学 演 習	2				2	
	物 理 学 特 別 講 義	2				2	
	物 理 学 実 験 I	2		2	2		2
	物 理 学 実 験 II	2				2	
◎化 学	化 学 総 論 I	2	2		2		2
	化 学 総 論 II	2		2	2		

化 学	化学各論 I	2			2	
	化学各論 II	2			2	
	化学各論 III	2			2	
	化学各論 IV	2			2	
	化学各論 V	2			2	
	化学演習	2			2	
	化学特別講義	2			2	
	化学実験 I	2	2	2		2
	化学実験 II	2			2	
	化学実験 III	2			2	
生 物 学	◎生物学総論 I	2	2		2	2
	生物学総論 II	2		2	2	
	生物学各論 I	2			2	
	生物学各論 II	2			2	
	生物学各論 III	2			2	
	生物学各論 IV	2			2	
	生物学各論 V	2			2	
	生物学各論 VI	2			2	
	生物学特別講義	2			2	
	生物学実験 I	2		2	2	2
	生物学実験 II	2			2	
	生物学実験 III	1			1	
生物学野外実習	1			1		
地 学	◎地学総論 I	2	2		2	2
	地学総論 II	2		2	2	
	地学各論 I	2			2	
	地学各論 II	2			2	
	地学各論 III	2			2	
	地学各論 IV	2			2	
	地学各論 V	2			2	
	地学特別講義	4			4	
	地学実験 I	2		2	2	2
	地学実験 II	1			1	
	地学実験 III	1			1	
	地学野外巡検	2			2	
理 科 教 育	◎理科教育総論	2	2		2	
	理科教育各論	2		2	2	
	理科教育特別講義	2		2	2	
特設科目						
計		102	10	6	24	10
			16		34	
特別研究		必修6単位				

備考1 ◎印は、小学校の教科に関する科目を兼ねる。

2 教科又は教職（教科分）の単位の取扱い

〔小〕6単位：専攻科目16単位に含まれている。

〔中〕4単位：専攻科目34単位に含まれている。

③ 技術教育

専 門 科 目 区 分 等	授 業 科 目	開 設 単 位	技 術 教 育 専 攻		障 害 児 教 育 専 攻
			必 修	選 択	[中] 必 修
木 材 加 工	製 図	2	2		2
	木 材 加 工 学	2	2		
	木 材 加 工 ・ 同 実 習	2	2		2
金 属 加 工	金 属 加 工 学	2		2	2
	金 属 加 工 ・ 同 実 習	2	2		
機 械	機 械 工 学 概 論	2	2		2
	機 械 材 料 学	2		2	
	機 械 ・ 同 実 習 I	2	2		2
	機 械 ・ 同 実 習 II	2		2	
電 気	電 気 ・ 電 子 工 学 概 論	2	2		2
	電 気 応 用	2		2	
	電 気 ・ 同 実 習 I	2	2		2
	電 気 ・ 同 実 習 II	2		2	
栽 培	栽 培 学	2		2	
	園 芸 学	2		2	
	応 用 昆 虫 学	2		2	
	栽 培 ・ 同 実 習	2	2		2
情 報 基 礎	情 報 基 礎 論	2		2	
	プ ロ グ ラ ミ ン グ I	2	2		
	プ ロ グ ラ ミ ン グ II	2		2	
	情 報 基 礎 ・ 同 実 習	2	2		2
技 術 科 教 育 特 設 科 目	技 術 科 教 育 ゼ ミ ナ ー ル	4		4	
計		46	22	12	18
特 別 研 究			34		
			必 修 6 単 位		

備考 教科又は教職(教科分)の単位の取扱い

[中] 4単位: 専攻科目34単位に含まれている。

④ 家政教育

専 門 科 目 区 分 等	授 業 科 目	開 設 単 位	家 政 教 育 専 攻				障 害 児 教 育 専 攻
			[小]		[中]		[中]
			必 修	選 択	必 修	選 択	必 修
家 庭 経 営 学	家 庭 管 理 学	2				2	
	家 庭 管 理 学 演 習	2				2	
	◎家 族 関 係 学	2		2	2		2
	家 庭 経 済 学	2		2	2		2
	家 政 学 原 論	2				2	
被 服 学	◎被 服 材 料 学	2	2		2		2
	被 服 管 理 学	2				2	
	被 服 構 成 学	2		2		2	
	被 服 衛 生 学	2				2	
	被 服 材 料 学 実 験	1				1	
	被 服 管 理 学 実 験	1				1	
	被 服 科 学 実 験	1		1	1		
	被 服 構 成 学 実 習 I	1		1	1		1
被 服 構 成 学 実 習 II	1				1		
栄 養 学	栄 養 学	2		2	2		2
	◎食 品 学	2	2		2		2
	食 品 衛 生 学	2				2	

食 物 学	調 理 科 学	2		2		2		
	栄 養 学 演 習	2				2		
	食 品 学 実 験	1				1		
	食 物 科 学 実 験	1		1	1			
	調 理 学 実 習 I	1		1	1		1	
	調 理 学 実 習 II	1				1		
住 居 学	◎住 環 境 論	2	2		2		2	
	住 生 活 論	2				2		
	住 居 学 演 習	2				2		
	製 図	1		1	1		1	
保 育 学	保育学I(家庭看護を含む。)	2		2	2		2	
	保 育 学 II	2				2		
家庭電気・機械	家 庭 電 気 ・ 機 械	2		2	2		2	
	情 報 処 理	2		2		2		
家 庭 科 教 育	家 庭 科 教 育 論	2				2		
	家 庭 科 教 育 各 論	2				2		
	家 庭 科 教 育 演 習	2				2		
	家 庭 科 教 育 ゼ ミ ナ ー ル	2				2		
	家 庭 科 特 別 講 義	6				6		
特 設 科 目								
計		66	6	10	21	13	19	
特 別 研 究			16		34			
			必 修 6 単 位					

備考1 ◎印は、小学校の教科に関する科目を兼ねる。

2 教科又は教職(教科分)の単位の取扱い

[小] 6単位: 専攻科目16単位に含まれている。

[中] 4単位: 専攻科目34単位に含まれている。

(5) 芸術・体育系

① 音楽教育

専 門 区 分 等	授 業 科 目	開 設 単 位	音 楽 教 育 専 攻					障 害 児 教 育 専 攻
			[小]		[中]			
			必 修	選 択	必 修	選 択 必 修	選 択	
ソルフェージュ	◎専攻ソルフェージュ	4	1		2		2	2
声 楽	◎独 唱 法 I	2	1		2			
	独 唱 法 II	2			2			
	◎合 唱 法	4	1		2		2	2
器 楽	◎ピ ア ノ 奏 法 I	2	1		2			
	ピ ア ノ 奏 法 II	2			2			
	管 楽 器 奏 法	4			2			
	弦 楽 器 奏 法	4			2			
	打 楽 器 奏 法	2			2			
	◎合 奏 法	4	1		2		2	2
	◎指 揮 法	2	1		2			2
音 楽 理 論 , 作 曲 及 音 楽 史	◎音 楽 理 論	1	1		1			1
	和 声 学	2					2	
	対 位 法	2					2	
	◎作 曲 法	1	1		1			1
	◎D T M 概 論	2					2	
	D T M 編 曲 法	2					2	
	D T M 作 曲 法	2					2	
	◎音 楽 史 概 説	2	2		2			2
	西 洋 音 楽 史	2					2	
日 本 音 楽 史	2					2		
民 族 音 楽 学	2					2		

音楽科教育	音楽科教育ゼミナール	4					4		
	音楽科特別表現Ⅰ	14					8		
	子どもと音楽表現Ⅰ	2					2		
	子どもと音楽表現Ⅱ	2					2		
特設科目									
計		74	10	6	16	4	14	12	
特別研究			16		14				
			必修6単位						

- 備考1 ◎印は、小学校の教科に関する科目を兼ねる。
 2 教科又は教職（教科分）の単位の取扱い
 [小] 6単位：専攻科目16単位に含まれている。
 [中] 4単位：専攻科目34単位に含まれている。

② 美術教育

専 門 科 目 区 分 等	授 業 科 目	開 設 単 位	美 術 教 育 専 攻						障 害 児 教 育 専 攻	
			〔 小 〕		〔 中 〕				〔 中 〕	
			必 修	選 択	必 修	選 択	選 択 必 修	選 択	必 修	選 択 必 修
絵 画	絵 画 論	4		2	2		2		2	} 2
	素 描	8		2	2		2		2	
	素 描 演 習	2		1	1		1		1	
	◎絵 画	8	2	2	2		2		2	
	絵 画 演 習	2		1	1		1		1	
	版 画	2		2	2		2		2	
	絵 画 技 法 演 習	4		1			1			
	野 外 風 景 画 実 習	2		2			2			
彫 刻	造 形 の 基 礎 Ⅰ	1		1			1			
	彫 刻 論	4		2	2		2		2	
	◎彫 刻 Ⅰ	8	2	2	2		2		2	
	彫 刻 Ⅱ	8		2	2		2		2	
	彫 刻 技 法 演 習	3		1	2		1		2	
	彫 刻 屋 外 実 習	2		2			2			
デ ザ イン	造 形 の 基 礎 Ⅱ	1		1			1			
	デ ザ イン 論	4		2	2		2		2	
	◎デ ザ イン Ⅰ	4	2		2		2		2	
	デ ザ イン Ⅱ	4		2	2		2		2	
	デ ザ イン Ⅲ	4		2	2		2		2	
	デ ザ イン 技 法 演 習	4		1	1		1		1	
	図 法 及 び 製 図	2		1	1		1		1	
	総 合 デ ザ イン 実 習	4		1			1			
工 芸	造 形 の 基 礎 Ⅲ	1		1			1			
	工 芸 論	4		2	2		2		2	
	◎工 芸 Ⅰ	4	2		2		2		2	
	工 芸 Ⅱ	4		1	1		1		1	
	工 芸 Ⅲ	4		1	1		1		1	
	工 芸 演 習	2		1	1		1		1	
	工 芸 技 法 演 習	3		2	2		2		2	
	造 形 の 基 礎 Ⅳ	1		1			1			
美 術 理 論 及 美 術 史	美 術 理 論	4		2	2		2	2		
	美 術 理 論 ・ 美 術 史 演 習	4		1			1			
	◎美 術 史	10	2		2		2	2		
	美 術 史 実 習	2		1			1			
	造 形 の 基 礎 Ⅴ	1		1			1			
	美 術 科 教 育 論	4		2			2			
	美 術 科 教 育 各 論	4		2			2			
	美 術 科 教 育 演 習	4		1			1			

美術科教育	美術教材実習	4		1			1		
	子どもと造形	4		1			1		
	美術科教育基礎	1		1			1		
特設科目									
計		142	10	6	4	16	14	4	8
特別研究			16		34		12		
			必修6単位						

- 備考1 ◎印は、小学校の教科に関する科目を兼ねる。
 2 教科又は教職(教科分)の単位の取扱い
 [小]6単位:専攻科目16単位に含まれている。
 [中]4単位:専攻科目34単位に含まれている。

③ 保健体育

専 門 科 目 区 分 等	授 業 科 目	開 設 単 位	保 健 体 育 専 攻				障 害 児 教 育 専 攻		
			〔小〕		〔中〕		〔中〕		
			必 修	選 択	必 修	選 択	必 修	選 択	
体 育 実 技	◎体 操	3		1		3			
	◎ダ ン ス	3		1		2	1		
	◎器 械 運 動	3		1		2			
	◎陸 上 競 技 I	3		1		2	1		
	◎陸 上 競 技 II	3		1		3	1		
	◎バ レ ー ボ ー ル	3		1		2	1		
	◎バ ス ケ ッ ト ボ ー ル	3		1		2	1		
	◎サ ッ カ ー	3		1		2	1		
	◎ソ フ ト ボ ー ル	2		1		2			
	テ ニ ス	2				2			
	バ ド ミ ン ト ン	2				2			
	ハ ン ド ボ ー ル	2				2			
	柔 道	3			1	2			
	剣 道	3			1	2			
	◎水 泳	3		1		2	1		
	◎夏 季 野 外 活 動 I	2		1		2			
◎夏 季 野 外 活 動 II	2		1		2				
◎冬 季 野 外 活 動 I	3		1		3				
◎冬 季 野 外 活 動 II	3		1		3				
体 育 原 理 ・ 体 育 心 理 学 ・ 体 育 経 営 管 理 学 ・ 体 育 社 会 学 ・ 運 動 学	◎体 育 原 理	2		2		2	2		
	体 育 史	2		2		2	2		
	体 育 心 理 学	2		2		2	2		
	◎体 育 経 営 管 理 学	2		2		2	2		
	体 育 社 会 学	2		2		2	2		
	◎身 体 運 動 学	2		2		2	2		
生 理 学	体 育 生 理 学	2		2		2	2		
	解 剖 学	2		2		2			
衛 生 学 及 び 公 衆 衛 生 学	衛 生 学	2		2		2	2		
学 校 保 健	学 校 保 健 管 理	2		2		2	2		
	精 神 保 健	1		1		1	1		
	救 急 処 置	2		2		2	2		
	発 育 学	2		2		2			
保 健 体 育 科 教 育	保 健 体 育 教 育 論	2		2		2			
	保 健 体 育 特 別 演 習	2	2		2				
	保 健 体 育 特 別 講 義	10				10			
特 設 科 目									
計		90	2	14	25	9	11	4	
特別研究			16		34		15		
			必修6単位						

- 備考1 ◎印は、小学校の教科に関する科目を兼ねる。
 2 教科又は教職（教科分）の単位の取扱い
 [小] 6単位：専攻科目16単位に含まれている。
 [中] 4単位：専攻科目34単位に含まれている。

2 生涯教育課程

① 発達臨床専攻

専 門 科 目 区 分 等	授 業 科 目	開 設 単 位	発達臨床専攻	
			必 修	選 択
課 程 共 通	生 涯 発 達 論	2		2
	運 動 処 方 論	2	2	
	環 境 と 人 間 の 共 存 論	2	2	
専 攻 基 礎	生 涯 発 達 心 理 学 概 論	2	2	
	発 達 臨 床 心 理 学 概 論	2	2	
	生 涯 学 習 概 論	2	2	
	行 動 福 祉 概 論	2	2	
臨 床 ヒューマン 研 究	発 達 精 神 保 健 学	2	2	
	発 達 臨 床 基 礎 実 験	2	2	
	生 涯 発 達 心 理 学 各 論	4		4
	発 達 臨 床 心 理 学 各 論	4		4
	臨 床 カウンセリング	2		2
	臨 床 カウンセリング演習	2		2
	臨 床 心 理 診 断 法 I	2		2
	臨 床 心 理 診 断 法 II	2		2
	臨 床 心 理 研 究 法	2		2
	生 活 心 理 学	2		2
	家 族 心 理 学	2		2
	高 齢 者 心 理 学	2		2
	精 神 医 学 概 論	2		2
	生 理 心 理 学 概 論	2		2
	発 達 障 害 心 理 学	2		2
発 達 障 害 幼 児 学	2		2	
生 涯 学 習 文 化 研 究	生 涯 学 習 各 論 I	2	2	
	生 涯 学 習 各 論 II	2		2
	社 会 教 育 概 論	2		2
	社 会 教 育 各 論	2		2
	教 育 社 会 学	2		2
	教 育 学 概 論	2		2
コ ミュニティ 福 祉 研 究	余 暇 論	2	2	
	社 会 福 祉 概 論	2	2	
	高 齢 者 福 祉 論	2		2
	障 害 者 福 祉 論	2		2
	行 動 福 祉 各 論	2		2
	社 会 生 活 支 援 論	2		2
	社 会 生 活 支 援 活 動 論	4		4
行 動 科 学 研 究 法	2		2	
ゼ ミ ナ ー ル	臨 床 ヒューマンゼミ	4		4
	生 涯 学 習 文 化 ゼミ	4		4
	コ ミュニティ福祉ゼミ	4		4
特 設 科 目				
計		92	20	32
特 別 研 究			必 修 6 単 位	

② 生涯スポーツ専攻

専 門 科 目 区 分 等	授 業 科 目	開 設 単 位	生涯スポーツ専攻				
			必 修	選 択 必 修	選 択		
共 通 基 礎	生 涯 発 達 論	2	2				
	運 動 処 方 論	2				2	
	環 境 と 人 間 の 共 存 論	2	2				
専 攻 基 礎	ス ポー ツ 比 較 文 化 論	2	2				
	野 外 活 動 論	2	2				
	バ イ オ メ カ ニ ク ス	2	2				
	生 涯 ス ポー ツ 論	2	2				
	ス ポー ツ 経 営 学	2				2	
生 涯 ス ポー ツ	社 会 体 育 概 論	2				2	
	余 暇 論	2				2	
	ス ポー ツ 心 理 学	2				2	
	ス ポー ツ 生 理 学	2				2	
	体 力 ト レ ー ニ ン グ 論	2				2	
	ス ポー ツ と 栄 養	2				2	
	ス ポー ツ 医 学	2				2	
	体 力 診 断 の 理 論	2				2	
	ス ポー ツ 指 導 論	2				2	
	救 急 法	2				2	
	解 剖 学	2				2	
	ス ポー ツ ・ マ ー ケ テ ィ ン グ 論	2				2	
	ス ポー ツ ・ ジ ョー ナ リ ズ ム 論	2				2	
	メ ン タ ル ・ マ ネー ジ ム ン ト	2				2	
	ス ポー ツ 関 係 法 規 論	2				2	
	生 涯 ス ポー ツ 特 別 講 義	10				10	
	実 技 理 論 ・ 実 習	テ ニ ス	3	1	1		1
		ゴ ル フ	3	1	1		1
		水 泳	3	1	1		1
		エ ア ロ ビ ク ス	3	1	1		1
ス キー		3	1	1		1	
野 外 活 動		3	2			1	
生 涯 ス ポー ツ の 応 用	施 設 実 習	8	4			4	
	テ ー ピ ン グ	4				4	
	ス ト レ ッ チ ン グ	4				4	
ゼ ミ ナ ー ル	体 力 ト レ ー ニ ン グ	4				4	
	フ ィ ー ル ド ワーク 演 習	6		2		4	
	野 外 活 動 演 習	6		2		4	
	ス ポー ツ ・ マ ー ケ テ ィ ン グ 演 習	6		2		4	
	運 動 処 方 演 習	6		2		4	
バ イ オ メ カ ニ ク ス 演 習	6		2		4		
特 設 科 目							
計		124	23	9		20	
特 別 研 究				29			
			必 修 6 単 位				

③ 人間環境専攻

専 門 科 目 区 分 等	授 業 科 目	開 設 単 位	人間環境専攻			
			必修	選択 必修	選択	
課 程 共 通	生涯発達論	2	2			
	運動処方論	2	2			
	環境と人間の共存論	2			2	
専 攻 基 礎	自然環境概論	2	2			
	生活環境概論	2	2			
	共生社会論(含・学外活動実習)	2	2			
	入門講(グローバル化と社会: その学際的アプローチ)	2	2			
自 然 環 境 領 域	環境物理学総論	2		●2		
	環境物理学実験	2		※2		
	環境物理学演習	2			2	
	環境化学総論	2		●2		
	環境化学実験	2		※2		
	環境化学演習	2			2	
	環境生物学総論	2		●2		
	環境生物学実験	2		※2		
	環境生物学演習	2			2	
	環境地学総論	2		●2		
	環境地学実験	2		※2		
	環境地学演習	2			2	
	自然環境特論Ⅰ	2			2	
	自然環境特論Ⅱ	2			2	
	自然環境特論Ⅲ	2			2	
	自然環境野外実習	2			2	
	自然環境教育法	2			2	
	科学技術史	2			2	
	環境保護活動論	2			2	
	ボランティア概論	2			2	
	ボランティア活動	2			2	
	生 活 環 境 領 域	住 環 境 論	2		■2	
		住環境論演習	2			2
住空間設計実習		2			2	
都市減災論		2		■2		
衣環境論Ⅰ		2		■2		
衣環境論Ⅱ		2			2	
アパレル工学実習Ⅰ		2			2	
アパレル工学実習Ⅱ		2			2	
アパレル素材性能論		2			2	
アパレル科学実験		2			2	
食品基礎論		2			2	
食 環 境 論		2		■2		
環境とリサイクル		2			2	
家 族 論		2			2	
生活福祉論		2			2	
生活空間と心理		2			2	
生活経営論		2			2	
感性工学		2			2	
生活環境デザイン論		2			2	
生活環境デザイン演習		2			2	
余 暇 論		2			2	
人体解剖学		2			2	
生活統計学		2		■2		
国際理解教育史	2		□2			

文化・社会 環境領域	多文化理解	2			2
	情報メディア論	2			2
	国際政治学	2		□2	
	歴史の中の現代世界システム	2			2
	地球市民社会論	2			2
	教育協力開発論	2			2
	環 境 と 法	2			2
	環 境 と 経 済	2			2
	国際経済論入門	2			2
	比較経済史論	2			2
	ヨーロッパ世界と歴史Ⅰ	2		□2	
	ヨーロッパ世界と歴史Ⅱ	2			2
	ヨーロッパ世界と歴史Ⅲ	2			2
	グローバル地誌	2			2
	グローバル地誌	2			2
	地域環境論Ⅰ	2			2
	地域環境論Ⅱ	2			2
	社会システム論演習	4			4
	グローバル社会特別講義	10			10
	言語と言語の科学	2			2
	英米の文学Ⅰ	2		□2	
	英米の文学Ⅱ	8			8
	英語教育論	8			8
日本語概説	2		□2		
日本文化論	8			8	
日本文化演習	8			8	
日本語論	8			8	
日本語教育概論	2			2	
日本語演習	8			8	
ゼミナール	自然環境ゼミナール	8			8
	生活環境ゼミナール	8			8
	文化・社会環境ゼミナール	8			8
	特別実践ゼミナール(留学生教育支援実習)	2			2
	特別実践ゼミナール(生涯学習支援実習)	2			2
特設科目					
計	236	12	10	30	
特別研究		必修6単位			

備考 選択必修の10単位は、●印の4科目(8単位)及び※のうちから1科目(2単位)の計5科目(10単位)又は■印の5科目(10単位)又は□印の5科目(10単位)のいずれかを選択すること。

3 情報教育課程

① 教育情報システム専攻

専 門 科 目 区 分 等	授 業 科 目	開 設 単 位	教育情報システム専攻	
			必修	選択
課 程 共 通	テクニカルコミュニケーション	2	2	
	インターフェースデザイン概論	2	2	
情 報 処 理 ・ 情 報 科 学	計 算 機 概 論	2	2	
	情 報 処 理 Ⅰ	2	2	
	情 報 処 理 演 習 Ⅰ	2	2	
	情 報 処 理 Ⅱ	2	2	
	情 報 処 理 演 習 Ⅱ	2	2	
	情 報 シ ス テ ム 管 理	2		2
	情 報 科 学 概 論	2	2	
	応 用 情 報 科 学	2		2

	知 識 工 学	2		2
数 理 科 学	微 分 ・ 積 分 学	2		2
	線 形 代 数 学	2		2
	確 率 ・ 統 計 学	2	2	
	情 報 数 学	2		2
	計 算 科 学	2		2
教 育 情 報 科 学	情 報 メ デ ィ ア 論	2		2
	視 覚 メ デ ィ ア 論	2		2
	授 業 シ ス テ ム 論	2		2
	教 育 統 計	2		2
	教 育 情 報 シ ス テ ム 設 計	2		2
	教 育 情 報 シ ス テ ム 特 別 講 義	2		2
	教 材 デ ザ イン 論	2		2
	イ ン タ ー フ ェ ー ス デ ザ イン 演 習	2		2
	デ ザ イン 概 論	2		2
	情 報 教 育 論	2	2	
	情 報 教 育 特 別 講 義	2		2
人 間 科 学	認 知 科 学 概 論	2	2	
	認 知 科 学 演 習	2		2
	生 体 情 報 シ ス テ ム 論	2		2
	生 体 情 報 シ ス テ ム 特 別 講 義	2		2
	精 神 医 学 概 論	2		2
ゼ ミ ナ ー ル	情 報 教 育 基 礎 ゼ ミ ナ ー ル	8		8
	情 報 教 育 ゼ ミ ナ ー ル	8		8
特 設 科 目				
	計	84	22	30
	特 別 研 究			必 修 6 単 位

情 報 技 術	認 知 科 学 概 論	2	2		
	計 算 機 概 論	2			2
	情 報 処 理 I	2	2		
	情 報 処 理 演 習 I	2	2		
	情 報 メ デ ィ ア 論	2			2
	芸 術 情 報 処 理	2			2
	教 育 情 報 シ ス テ ム 設 計	2			2
芸 術 理 論	マ ル チ メ デ ィ ア 著 作 権 法	2	2		
	芸 術 史	4			4
	視 覚 メ デ ィ ア 史	2	2		
	芸 術 論 (音 楽 ・ 美 術)	8			8
	メ デ ィ ア デ ー タ 編 集 法	2	2		
視 覚 表 現	視 覚 メ デ ィ ア 論	4			4
	デ ザ イン 概 論	2	2		
	造 形 表 現 演 習	8			8
	色 彩 理 論 / 演 習	2		2	
	イ ン タ ー フ ェ ー ス デ ザ イン 演 習	2			2
	環 境 情 報 デ ザ イン	2			2
	視 覚 メ デ ィ ア 基 本 演 習	2	2		
	視 覚 伝 達 論	4			4
	メ デ ィ ア 芸 術 (自 由 ・ 芸 術)	4			4
	音 楽 表 現 演 習	4			4
	音 響 表 現	音 響 メ デ ィ ア 概 論	2	2	
音 響 メ デ ィ ア 基 本 演 習		2			2
音 響 デ ザ イン 論		2			2
D T M 概 論		2		2	
D T M 編 曲 法		2			2
D T M 創 作		2			2
ゼ ミ ナ ー ル	マ ル チ メ デ ィ ア 基 本 演 習	4			4
	マ ル チ メ デ ィ ア 制 作 総 合 演 習	4			4
特 設 科 目					
	計	86	22	2	28
	特 別 研 究				必 修 6 単 位

② マルチメディア芸術専攻

専 門 科 目 区 分 等	授 業 科 目	開 設 単 位	マ ル チ メ デ ィ ア 芸 術 専 攻		
			必 修	選 択 必 修	選 択
課 程 共 通	テ ク ニ カ ル コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	2	2		
	イ ン タ ー フ ェ ー ス デ ザ イン 概 論	2	2		

附 則

- 1 この規則は、平成11年4月1日から施行する。
- 2 平成10年度以前の入学者については、なお従前の例による。

富山大学留学生センター規則の制定

富山大学留学生センター規則の制定理由

富山大学に学内共同教育研究施設として、富山大学留学生センターが設置されるため、所要事項を定める。

富山大学留学生センター規則を次のとおり制定する。

平成11年3月31日

富山大学長 時 澤 貢

富山大学留学生センター規則

(趣 旨)

第1条 この規則は、富山大学学則第9条第2項の規定に基づき、富山大学留学生センター（以下「センター」という。）に関し、必要な事項を定める。

(目 的)

第2条 センターは、外国人留学生及び海外留学を希望する富山大学（以下「本学」という。）の学生に対し、必要な教育及び指導助言等を行うことにより、本学における国際交流の推進に寄与することを目的とする。

(業 務)

第3条 センターは、次に掲げる業務を行う。

- (1) 外国人留学生に対する日本語・日本事情教育
- (2) 外国人留学生に対する修学上及び生活上の指導助言
- (3) 海外留学を希望する学生に対する修学上及び生活上の指導助言
- (4) 留学生教育に関する調査及び研究
- (5) その他センターの目的達成に必要な事項

(職 員)

第4条 センターに、次に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) 専任の教員
- (4) その他必要な職員

(センター長)

第5条 センター長は、センターの業務を掌理する。

- 2 センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。
- 3 センター長の選考については、別に定める。

(副センター長)

第6条 副センター長は、センター長を補佐し、センター業務を整理する。

- 2 副センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。
- 3 副センター長の選考については、センターの専任の教員のうちから第8条に定める運営委員会の議に基づき、学長が行う。

(専任の教員)

第7条 専任の教員は、センターの業務に従事する。

- 2 専任の教員の選考については、別に定める。

(運営委員会)

第8条 センターに、センターの管理運営に関する重要事項を審議するため、富山大学留学生センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

(運営委員会の審議事項)

第9条 運営委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 管理運営の基本方針に関すること。
- (2) 事業の計画及び実施に関すること。
- (3) センター長、副センター長及び専任の教員の人事に関すること。

(4) 予算概算の方針に関すること。

(5) その他センターに関し必要な事項

(運営委員会の組織)

第10条 運営委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
- (2) センターの専任の教員
- (3) 各学部から選出された教授 各1人
- (4) 学生部長
- (5) 学生部次長

2 前項第3号の委員は、学長が委嘱する。

3 第1項第3号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 第1項第2号の委員のうち教授を除く専任の教員は、前条第3号の事項のうち専任の教員の人事に関する事項の審議には加わらない。

5 第1項第5号の委員は、前条第3号の事項の審議には加わらない。

(委員長)

第11条 運営委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

2 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長が指名する委員が、その職務を代行する。

(運営委員会の議事)

第12条 運営委員会は、構成員の半数以上が出席しなければ開会できない。議事は、出席者の過半数をもって決する。ただし、可否同数のときは、議長がこれを決する。

2 前項の規定にかかわらず、第9条第3号の事項を審議する会議は、構成員の3分の2以上が出席しなければ開会できない。議事は、出席者の3分の2以上をもって決する。

(意見の聴取)

第13条 運営委員会が必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求めて意見を聴くことができる。

(専門委員会)

第14条 運営委員会に、専門的事項を担当するため、必要に応じて専門委員会を置くことができる。

2 専門委員会に関し必要な事項は、運営委員会の議を経て、センター長が別に定める。

(日本語研修コース)

第15条 センターに、予備教育を行うため、日本語研修

コースを置く。

2 日本語研修コースに関し必要な事項は、別に定める。

(雑 則)

第16条 この規則に定めるもののほか、センターの運営に関し必要な事項は、運営委員会の議を経て、センター長が定める。

(庶 務)

第17条 センターの庶務は、学生部留学生課において処理する。

附 則

1 この規則は、平成11年4月1日から施行する。

2 富山大学留学生指導相談室規則(平成5年1月22日制定)は、廃止する。

富山大学水素同位体科学研究センター規則の制定

富山大学水素同位体科学研究センター規則の制定理由

富山大学に学内共同教育研究施設として、富山大学水素同位体科学研究センターが設置されるため、所要事項を定める。

富山大学水素同位体科学研究センター規則を次のとおり制定する。

平成11年3月31日

富山大学長 時 澤 貢

富山大学水素同位体科学研究センター規則

(趣 旨)

第1条 この規則は、富山大学学則第9条第2項の規定に基づき、富山大学水素同位体科学研究センター(以下「センター」という。)に関し、必要な事項を定める。

(目 的)

第2条 センターは、水素同位体の機能に係わる基礎的研究及び応用技術の開発を行うとともに、これら関連分野の研究開発を行う学内外の教員その他これに準ずる者の共同利用に供し、核融合炉工学、材料工学及び水素エネルギー科学にまたがる水素同位体科学研究の推進に資することを目的とする。

(教 員)

第3条 センターにセンター長を置く。

2 センター長は、センターの業務を掌理する。

第4条 センターに教授、助教授その他の職員を置く。

2 センター長及び教員の選考に必要な事項は、別に定める。

(運営委員会)

第5条 センターに、センターの重要事項を審議するため、水素同位体科学研究センター運営委員会(以下「運営委員会」という。)を置く。

(運営委員会の審議事項)

第6条 運営委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 管理運営の基本方針に関すること。
- (2) センター長及び教員の人事に関すること。
- (3) その他センターに関する必要な事項
(運営委員会の組織)

第7条 運営委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
 - (2) センターの教授及び助教授
 - (3) 理学部から選出された教授 3人
 - (4) 工学部から選出された教授 2人
 - (5) 教育学部から選出された教授 1人
 - (6) 地域共同研究センターの専任教員 1人
- 2 前項第3号から第6号までの委員は、学長が委嘱する。

3 第1項第3号から第6号までの委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 第1項第2号及び第6号の委員のうち教授を除く教員は、前条第2号の事項のうち教員の人事に関する事項の審議には加わらない。

(委員長)

第8条 運営委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

- 2 委員長は運営委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長が指名する委員が、その職務を代行する。

(運営委員会の議事)

第9条 運営委員会は、構成員の半数以上が出席しなければ開会できない。議事は、出席者の過半数をもって決する。ただし、可否同数のときは、議長がこれを決する。

- 2 前項の規定にかかわらず、第6条第2号の事項を審議する会議は、構成員の3分の2以上が出席しなければ開会できない。議事は、出席者の3分の2以上をもって決する。

(意見の聴取)

第10条 運営委員会が必要と認めたときは、委員以外の

者の出席を求めて意見を聴くことができる。

(専門委員会)

第11条 運営委員会に、専門的事項を担当するため、必要に応じて専門委員会を置く。

- 2 専門委員会に関し、必要な事項は、運営委員会の議を経て、センター長が別に定める。

(庶務)

第12条 センターの庶務は、庶務部庶務課において処理する。

附 則

- 1 この規則は、平成11年4月1日から施行する。
- 2 富山大学水素同位体機能研究センター規則(平成2年6月8日制定)は、廃止する。

富山大学国際交流委員会規則の一部改正

富山大学国際交流委員会規則の改正理由

- 1 富山大学に学内共同教育研究施設として富山大学留学生センターが設置されることに伴い、組織の見直しを図り、所要事項を改める。
- 2 字句の整備を行う。

富山大学国際交流委員会規則を次のとおり改正する。

平成11年3月31日

富山大学長 時 澤 貢

富山大学国際交流委員会規則の一部を改正する規則

富山大学国際交流委員会規則(昭和59年2月17日制定)の一部を次のように改正する。

第3条第1項第3号中「教官」を「教員」に改め、同

項中第6号を第7号とし、同項第5号の次に次の1号を加える。

(6) 留学生センターのセンター長及び副センター長

附 則

この規則は、平成11年4月1日から施行する。



第113回構内交通対策委員会（3月2日）

（審議事項）

- (1) 入構許可書の発行について
- (2) 自己点検評価による付託事項について
- (3) 富山大学五福地区交通安全会について
- (4) その他

第2回年史編纂委員会（3月3日）

（審議事項）

- (1) 「回想録」の扱いについて
- (2) 「50周年記念式典・祝賀会挙行に関する掲載」の扱いについて

第4回大学改革推進委員会（3月11日）

（審議事項）

- (1) 各専門委員会における検討内容について
- (2) その他

第5回自己点検評価委員会（3月12日持回り）

（審議事項）

- (1) 各専門委員会における検討内容について

第5回国際交流委員会（3月15日）

（審議事項）

- (1) 平成11年度富山大学国際交流事業基金各種事業の選考について
- (2) 富山大学国際交流委員会規則及び富山大学国際交流委員会留学生部会内規の一部改正について
- (3) マレーシア工科大学との学術交流協定の継続について
- (4) 蘭州大学及び大連理工大学との学術交流協定について
- (5) その他

第2回低温液化室運営委員会（3月16日）

（審議事項）

- (1) 低温液化室長の選出について
- (2) 平成12年度歳出概算要求について
- (3) 平成12年度国立学校施設整備概算要求について
- (4) 低温液化室の一部貸与について
- (5) その他

第5回附属図書館商議会（3月16日）

（審議事項）

- (1) 平成12年度歳出概算要求について
- (2) 平成11年度の附属図書館開館日程について

第11回事務協議会（3月16日）

（議 題）

- (1) 当面の諸課題について
- (2) その他

第8回教務委員会（3月16日）

（審議事項）

- (1) 多様な学生像に対応した教育システムの確立について

第5回総合情報処理センター運営委員会（3月18日）

（審議事項）

- (1) 富山大学総合情報処理センターが運用管理する端末装置を有する各部局サテライト端末室利用内規（案）について
- (2) 富山大学総合情報処理センター利用負担金に関する要項（案）について
- (3) 概算要求について
- (4) その他

第13回部局長懇談会（3月19日）

（議 題）

- (1) 廃液等による環境汚染防止対策について
- (2) 新任教員説明会について
- (3) その他

第2回大学院委員会（3月19日）

（審議事項）

- (1) 富山大学大学院教育学研究科規則の一部改正について
- (2) 富山大学大学院経済学研究科規則の一部改正について
- (3) その他

第15回評議会（3月19日）

（審議事項）

- (1) 富山大学学則の一部改正について
- (2) 富山大学国際交流委員会規則の一部改正について
- (3) 富山大学理学部規則の一部改正について

- (4) 富山大学大学院教育学研究科規則の一部改正について
- (5) 富山大学大学院経済学研究科規則の一部改正について
- (6) 富山大学留学生センター規則の制定について
- (7) 富山大学留学生センターのセンター長及び教員選考規則の制定について
- (8) 富山大学水素同位体科学研究センター規則の制定について
- (9) 富山大学水素同位体科学研究センターのセンター長及び教員選考規則の制定について
- (10) 富山大学留学生センター及び富山大学水素同位体科学研究センターの設置に伴う関係規則等の整理に関する規則について
- (11) 学生の除籍について
- (12) 廃液等による環境汚染防止対策について
- (13) 富山大学の理念について
- (14) 学生部長候補者の選考について
- (15) マレーシア工科大学との大学間交流協定の締結に

ついて
(16) その他

第114回構内交通対策委員会（3月23日）

（議 題）

- (1) 自己点検評価による付託事項について
- (2) 富山大学五福地区交通安全会について
- (3) その他

第7回環日本海地域研究センター運営委員会（3月23日）

（協議事項）

- (1) 概算要求について
- (2) その他

第16回評議会（臨時）（3月29日）

（審議事項）

- (1) 学長補佐の選考について
- (2) 学校教育法等の一部を改正する法律案について

人 事 異 動

異動区分	発令年月日	氏 名	異 動 前 の 所 属 官 職	異 動 内 容
辞 職	11. 3. 6	鳥崎長一郎	教 授 工学部（物質生命システム 工学科応用化学）	辞 職
	11. 3. 31	佐藤 朋之	助教授 人文学部（言語文化学科 ヨーロッパ言語文化）	〃
	〃	渡邊 知行	助教授 経済学部（経営法学科民事法）	〃
	〃	吉田 竜司	講 師 〃（経済学科比較経済論）	〃
	〃	鳥田 邦雄	助 手 工学部（機械知能システム工学科 エネルギー・環境工学）	〃
	〃	水上 義行	教頭（副校長）教育学部（附属小学校）	〃
	〃	田中 一昭	教 諭 〃（ 〃 ）	〃
	〃	陽 堅友	教 諭 〃（附属中学校）	〃
	〃	嶋崎未和子	養護教諭 〃（ 〃 ）	〃
	〃	酒井 義久	教 頭（副校長） 〃（附属養護学校）	〃
	〃	中野 浩美	教 諭 〃（ 〃 ）	〃
	〃	鳥田 公子	養護教諭 〃（ 〃 ）	〃
	〃	吉川真利子	教 諭 〃（附属幼稚園）	〃
併 任	11. 3. 31	塚野 州一	教 授 教育学部	教育学部長（～13. 3. 30）
	〃	宮崎 州弘	教 授 教育学部	評議員（～11. 5. 31）
併任解除	11. 3. 31	塚野 州一	評議員 教育学部	併任解除

異動区分	発令年月日	氏 名	異 動 前 の 所 属 官 職	異 動 内 容
辞 職	11. 3. 31	三井 進	経済学部専門職員	辞職
退 職	11. 3. 31	秋元 國男	附属図書館情報管理課図書館専門員	定年退職
	〃	佐伯 光雄	庶務部庶務課文書係長	〃
採 用	11. 4. 1	日俣詠里子		経理部経理課給与係
	〃	谷川 通		人文学部・理学部庶務係
	〃	大川 純		教育学部会計係
昇 任	11. 4. 1	杉本 周平	庶務部庶務課庶務係長	庶務部庶務課専門員（大学改革担当）
	〃	滋野 康雄	附属図書館情報サービス課 情報サービス係長	附属図書館情報管理課図書館専門員
	〃	伊野不二夫	庶務部人事課任用係長	富山医科薬科大学総務部庶務課専門員 （人事企画担当）
	〃	村田 美憲	工学部学務係学務主任	経済学部学生係長
	〃	畠山 美苗	附属図書館情報サービス課 情報サービス係	高岡短期大学庶務課図書係長
	〃	近藤 達也	庶務部庶務課学事調査係学事調査主任	高岡短期大学事業課専門職員
	〃	田中 正博	経理部経理課給与係給与主任	富山医科薬科大学医事課収入係長
	〃	田村 修一	経理部経理課用度係用度主任	国立立山少年自然の家庶務課会計係長
	〃	寺脇 誠一	教育学部会計係経理主任	富山商船高等専門学校学生課図書係長
	〃	岩城 稔	工学部用度係	経理部主計課司計係予算第二主任
	〃	倉田 実	入試課入学試験係	入試課入学試験係入学試験主任
	〃	生田 孝行	教育学部庶務係	教育学部庶務係庶務主任
	〃	細田 和義	教育学部会計係	教育学部会計係用度主任
	〃	山本 徹	工学部庶務係	工学部庶務係人事主任
	〃	寺田 明弘	教育学部会計係	高岡短期大学会計課用度係管理主任
	〃	友坂 敏信	工学部技術職員	工学部技術専門職員
転 任	11. 4. 1	林 征紀	富山医科薬科大学総務部庶務課課長補佐	庶務部人事課専門員（研修・服務担当）
	〃	櫻井 雅和	富山商船高等専門学校学生課学生係長	庶務部人事課専門職員（福祉担当）
	〃	太田 則春	富山医科薬科大学 教務 図書課専門職員（企画担当）	庶務部人事課専門職員（安全管理担当）
	〃	四津 忠一	高岡短期大学庶務課図書係長	附属図書館情報サービス課参考調査係長
	〃	岩永 晴雄	国立立山少年自然の家庶務課会計係長	教育学部附属学校第一係長
	〃	柴田 利治	高岡短期大学学生課学生係長	人文学部・理学部学務第一係長
	〃	林 茂美	入試課入学試験係長	高岡短期大学学生課専門職員
	〃	上木 祐一	富山工業高等専門学校 会計課出納係出納主任	経理部経理課給与係給与主任
	〃	中島 潤子	富山医科薬科大学 総務部庶務課職員係看護部事務主任	附属図書館情報管理課図書情報係 図書情報主任
	〃	牧田 秀晴	国立立山少年自然の家 庶務課庶務係庶務主任	人文学部・理学部用度係用度第二主任
	〃	笹岡 直美	富山工業高等専門学校 会計課出納係情報処理主任	人文学部・理学部用度係用度第三主任
	〃	小森 功	富山工業高等専門学校 会 課総務係総務主任	教育学部会計係経理主任

異動区分	発令年月日	氏 名	異 動 前 の 所 属 官 職	異 動 内 容
転 任	11. 4. 1	山田 勇一	富山工業高等専門学校 会計課用度係用度主任	経済学部会計係用度主任
	〃	武田 正夫	高岡短期大学庶務課庶務係庶務主任	工学部庶務係庶務主任
	〃	山上 康彦	富山商船高等専門学校 学生課学生係学生主任	工学部学務係教務第二主任
	〃	藤井 秀春	学生課留学生係留学生主任	富山工業高等専門学校 学生課学生係学生主任
	〃	西田 等	人文学部・理学部庶務係人事主任	富山医科薬科大学 総務部庶務課職員係職員主任
	〃	山崎 昌代	人文学部・理学部経理係経理第二主任	富山工業高等専門学校 会計課出納係出納主任
	〃	小林 雄二	人文学部・理学部学務第二係 教務第一主任	富山商船高等専門学校 学生課教務係教務情報主任
	〃	高橋 春男	人文学部・理学部用度係物品管理主任	国立立山少年自然の家 事業課業務係調査企画主任
	〃	水木 節子	人文学部・理学部学務第二係学生主任	金沢大学教育学部会計係経理主任
	〃	高木 晃	経済学部庶務係人事主任	高岡短期大学庶務課庶務係庶務主任
	〃	亀谷 仁一	経済学部会計係用度主任	富山工業高等専門学校 会計課出納係情報処理主任
	〃	穴田さおり	文部省生涯学習局男女共同参画学習課	庶務部庶務課庶務係
	〃	竹内 由利	富山医科薬科大学教務部学生課総務係	庶務部企画室企画係
	〃	角井 薫子	富山工業高等専門学校庶務課図書係	附属図書館情報サービス課 情報サービス係
	〃	桐井久美枝	高岡短期大学会計課出納係	人文学部・理学部経理係
	〃	杉田 昇	富山工業高等専門学校学生課学生係	経済学部庶務係
	〃	長多 玄子	富山医科薬科大学総務部庶務課給与係	経済学部庶務係
	〃	加藤 尚弘	人文学部・理学部庶務係	名古屋大学医学部庶務係
	〃	山田 裕子	経済学部庶務係	富山工業高等専門学校庶務課庶務係
	〃	櫻井 幸子	経済学部会計係	高岡短期大学会計課出納係
	〃	桶田 哲郎	工学部用度係	国立立山少年自然の家庶務課庶務係
	〃	畑 篤	高岡短期大学学生課実習係技術専門職員	総合情報処理センター技術専門職員
	〃	奥田 都	教育学部技術専門職員	高岡短期大学学生課実習係技術専門職員
配 置 換	11. 4. 1	山本 宏	愛知教育大学庶務部人事課長	庶務部庶務課長
	〃	鈴木 國夫	徳島大学医学部管理課長	経理部経理課長
	〃	柳瀬 邦夫	富山商船高等専門学校会計課長	留学生課長
	〃	星野茂登一	国際日本文化研究センター 情報管理施設情報課長	附属図書館情報管理課長
	〃	中野 好二	庶務部庶務課長	山梨大学庶務課長
	〃	海老根 裕	経理部経理課長	埼玉大学経理部経理課長
	〃	岩淵 恭幸	附属図書館情報管理課長	山形大学附属図書館情報管理課長
	〃	能登 功	学生課専門員（留学生担当）	留学生課専門員（留学生担当）
	〃	江藤 憲和	教育学部附属学校第一係長	庶務部企画室専門職員
	〃	東 敏	庶務部企画室専門職員	経理部主計課専門職員（予算分析担当）
	〃	湊 馨	経理部主計課専門職員（予算分析担当）	経理部経理課専門職員（契約担当）

異動区分	発令年月日	氏 名	異 動 前 の 所 属 官 職	異 動 内 容
配 置 換	11. 4. 1	堀 周一	経済学部学生係長	厚生課専門職員
	◇	松本 進	経理部経理課専門職員（契約担当）	教育学部専門職員 （附属学校企画調整担当）
	◇	宮越 謙三	工学部専門職員（研究協力担当）	経済学部専門職員（外国人留学生担当）
	◇	今井 稔	教育学部専門職員 （附属学校企画調整担当）	工学部専門職員（研究協力担当）
	◇	堀 和實	入試課教務係長	庶務部庶務課文書係長
	◇	白山 一男	庶務部人事課職員係長	庶務部人事課任用係長
	◇	作井 功	庶務部人事課専門職員（研修企画担当）	庶務部人事課職員係長
	◇	川上 重信	教育学部学務係長	入試課入学試験係長
	◇	黒田 芳雄	厚生課専門職員	入試課教務係長
	◇	大崎 秀雄	学生課留学生係長	留学生課留学生係長
	◇	脇坂 勝人	附属図書館情報サービス課参考調査係長	附属図書館情報サービス課学術情報係長
	◇	吉田 恵吉	附属図書館情報サービス課学術情報係長	附属図書館情報サービス課 情報サービス係長
	◇	安西 修三	人文学部・理学部学務第一係長	教育学部学務係長
	◇	山田 洋一	庶務部庶務課庶務係庶務第一主任	庶務部庶務課庶務係庶務主任
	◇	石塚 久博	工学部庶務係庶務主任	庶務部庶務課学事調査係学事調査主任
	◇	島田 勝弘	庶務部人事課任用係任用第一主任	庶務部人事課任用係任用主任
	◇	伏喜 俊至	経理部主計課司計係予算第一主任	経理部主計課総務係総務主任
	◇	荒木 義弘	経理部主計課司計係予算第二主任	経理部主計課司計係予算第一主任
	◇	村道 俊一	施設課企画係企画主任	経理部経理課出納係出納第一主任
	◇	澤崎 勝彦	工学部用度係用度第一主任	経理部経理課用度係用度主任
	◇	藤田 一吉	人文学部・理学部用度係用度第二主任	施設課企画係企画主任
	◇	飯野るみ子	庶務部庶務課庶務係庶務第二主任	留学生課留学生係留学生主任
	◇	長崎 宏美	庶務部人事課任用係任用第二主任	人文学部・理学部庶務係人事主任
	◇	絹石 達也	人文学部・理学部経理係経理第一主任	人文学部・理学部経理係経理主任
	◇	畠山 節子	工学部学務係学生主任	人文学部・理学部学務第一係学生主任
	◇	田中 茂	庶務部企画室企画係管理主任	人文学部・理学部学務第二係学生主任
	◇	光澤 和嗣	経済学部教務係教務第一主任	人文学部・理学部学務第二係 教務第一主任
	◇	山本 悦子	経済学部教務係学務主任	教育学部学務係学務主任
	◇	安部 保子	人文学部・理学部学務第一係学生主任	経済学部教務係学務主任
	◇	森田 智	経済学部教務係教務第二主任	経済学部教務係教務主任
	◇	高瀬 範和	経理部経理課出納係出納第一主任	工学部用度係用度第一主任
	◇	木下 晋	附属図書館情報管理課 図書情報係図書情報主任	工学部用度係物品管理主任
	◇	平野美智子	教育学部学務係学務主任	工学部学務係学生主任
◇	小林 司	工学部学務係教務主任	工学部学務係教務第一主任	

異動区分	発令年月日	氏 名	異 動 前 の 所 属 官 職	異 動 内 容
配 置 換	11. 4. 1	丸本理恵子	経理部経理課給与係	経理部主計課総務係
	〃	竹島勢都子	学生課総務係	経済学部会計係
	〃	串田 純恵	経理部主計課総務係	工学部用度係
	〃	松島 珠喜	附属図書館情報管理課図書情報係	附属図書館情報管理課雑誌情報係
	〃	生田 智子	附属図書館情報管理課雑誌情報係	附属図書館情報管理課図書情報係
	〃	増山 照夫	教育学部技能職員（植物育成員）	教育学部技術職員
	〃	原 正憲	水素同位体機能研究センター技術職員	水素同位体科学研究センター技術職員
退 職	11. 4. 1	平野砂都美	教育学部庶務係	11. 3. 31限り任期満了退職
育児休業	11. 4. 1	岡元祐里子	教育学部庶務係	職務復帰
職務命令	11. 4. 1	矢後 和子	庶務部庶務課専門職員	企画調整担当を命ずる 研究・法規担当を免ずる
	〃	作井 功	庶務部人事課専門職員	研修企画担当を免ずる
	〃	黒田 芳雄	厚生課専門職員	主任専門職員を免ずる
	〃	高安 勇吉	工学部技術専門職員	技術部技術長を命ずる
	〃	奥田 都	教育学部技術専門職員	技術部技術長心得を免ずる
	〃	大山 達雄	工学部技術専門職員	技術部第三技術班第一技術主任を命ずる 技術部第三技術班副主任を免ずる
	〃	友坂 敏信	工学部技術専門職員	技術部第三技術班第二技術主任を命ずる
	〃	畑 篤	総合情報処理センター技術専門職員	技術官とする 技術部第一技術班員を命ずる
	〃	増山 照夫	教育学部技術職員	技術官とする 技術部第一技術班員を命ずる
採 用	11. 4. 1	源甲斐美里		事務補佐員（工学部）
	〃	高瀬 雅美		事務補佐員 （附属図書館情報サービス課）
	〃	浜浦真由美		事務補佐員 （附属図書館情報サービス課）
	〃	菅野 充加		事務補佐員（人文学部・理学部）
	〃	高松 典子		事務補佐員（教育学部）
	〃	中川 孝雄		臨時用務員（教育学部作業員）
	〃	高田 修		臨時用務員（工学部作業員）
退 職	11. 4. 1	高松 典子	事務補佐員 （附属図書館情報サービス課）	平成11年3月31日限り退職
	〃	湯野 秋子	事務補佐員（人文学部・理学部）	〃
	〃	浜浦真由美	事務補佐員（人文学部・理学部）	〃
	〃	大林美由記	事務補佐員（人文学部・理学部）	〃
	〃	島倉 圭子	臨時用務員（教育学部炊婦）	〃
	〃	福村 一男	臨時用務員（教育学部作業員）	〃
	〃	東海 香織	事務補佐員（工学部）	〃
	〃	川崎 宏子	事務補佐員（工学部）	〃
	〃	柳井瑠美子	事務補佐員（工学部）	〃

異動区分	発令年月日	氏 名	異 動 前 の 所 属 官 職	異 動 内 容
退 職	11. 4. 1	片山 良一	臨時用務員（工学部作業員）	平成11年3月31日限り退職
採 用	11. 4. 1	黒田 廉		助教授 人文学部（言語文化学科 ヨーロッパ言語文化）
	〃	小林 功		講 師 〃 （人文学科歴史文化）
	〃	和田とも美		講 師 〃 （言語文化学科 日本東洋言語文化）
	〃	藤原 孝章		助教授 教育学部（社会科教育）
	〃	堀井 啓幸		助教授 〃 （学校教育）
	〃	杉本 豊一		教頭（副校長）〃（附属小学校）
	〃	松永 和久		教 諭 〃 （ 〃 ）
	〃	河原 弘幸		教 諭 〃 （附属中学校）
	〃	島田みどり		養護教諭 〃 （ 〃 ）
	〃	永瀬 行幸		教 諭 〃 （附属養護学校）
	〃	平野 隆志		教 諭 〃 （ 〃 ）
	〃	金山 薫		教 諭 〃 （ 〃 ）
	〃	松原 祐子		養護教諭 〃 （ 〃 ）
	〃	開 仁志		教 諭 〃 （附属幼稚園）
	〃	今村 弘子		助教授 経済学部（経済学科比較経済論）
	〃	古川 勝		助教授 〃 （経営学科管理科学）
	〃	横山 一憲		助教授 〃 （ 〃 ）
	〃	近藤 康之		講 師 〃 （経済学科政策科学）
	〃	石田 眞得		講 師 〃 （経営法学科 企業関係法）
	〃	高山龍太郎		助 手 経済学部（経済学科比較経済論）
	〃	木村 巖		助 手 理 学 部（数学科数理解析）
	〃	成田 欣弥		助 手 〃 （生物学科生体制御学）
	〃	チホアキ セルゲイ グリゴリエヴィチ		教 授 工 学 部（電気電子システム工学科 電子物性デバイス工学） 任 期 平成12年3月31日まで
〃	喜久田寿郎		助 手 〃 （電気電子システム工学科 電子物性デバイス工学）	
〃	清水 理能		助 手 〃 （機械知能システム 工学科設計生産工学）	
昇 任	11. 4. 1	大野 圭介	講 師 人文学部（言語文化学科 日本東洋言語文化）	助教授 人文学部（言語文化学科 日本東洋言語文化）
	〃	岸田 文隆	講 師 〃 （言語文化学科 日本東洋言語文化）	助教授 大阪外国語大学 外国語学部
	〃	若林 丈靖	講 師 経済学部（経済学科理論経済学）	助教授 経済学部（経済学科理論経済学）
	〃	向井知香子	講 師 〃 （経営学科応用経営）	助教授 〃 （経営学科応用経営）
	〃	小野 理恵	講 師 〃 （経営学科管理科学）	助教授 〃 （経営学科管理科学）
	〃	大西 吉之	助 手 大阪大学 文学部	講 師 〃 （経済学科比較経済論）
	〃	藤 浩明	助 手 東京大学 海洋研究所	助教授 〃 （地球科学科 地球ダイナミクス）

異動区分	発令年月日	氏 名	異 動 前 の 所 属 官 職	異 動 内 容
昇 任	11. 4. 1	宮崎 隆文	助 手 理 学 部 (化学科反応物性化学)	助教授 愛媛大学 工学部
	〃	磯部 正治	助教授 工 学 部 (物質生命システム 工学科生命工学)	教 授 工 学 部 (物質生命システム 工学科生命工学)
	〃	加藤扶久美	助教授 教育学部 (国語教育)	教 授 留学生センター
転 任	11. 4. 1	根津由喜夫	助教授 人文学部 (人文学科歴史文化)	助教授 金沢大学 文学部
	〃	中藤 康俊	教 授 経済学部 (経済学科比較経済論)	教 授 岡山大学 文学部
	〃	柳井 雅也	助教授 岡山大学 文学部	助教授 経済学部 (経済学科比較経済論)
	〃	塩原 肇	助教授 理 学 部 (地球科学科 地球ダイナミクス)	助教授 東京大学 地震研究所
配 置 換	11. 4. 1	渡邊 國昭	教 授 水素同位体機能研究センター	教 授 水素同位体科学研究センター
	〃	松山 政夫	教 授 〃	教 授 〃
	〃	蘆田 完	助教授 〃	助教授 〃
	〃	波多野政治	助教授 〃	助教授 〃
	〃	田中 るみ	助 手 〃	助 手 〃
	〃	濱田 美和	講 師 教育学部 (国語教育)	講 師 留学生センター
臨時的任用	11. 4. 1	中川 光栄		教 諭 教育学部 (附属幼稚園) (~11. 5. 7)
併 任	11. 4. 1	広岡 公夫	教 授 理 学 部	理学部長 (~13. 3. 31)
	〃	渡邊 國昭	教 授 水素同位体科学研究センター	水素同位体科学研究センター長 (~13. 3. 31)
	〃	塩澤 和章	教 授 工 学 部	留学生センター長 (~13. 3. 31)
	〃	金森 寛	教 授 理 学 部	評議員 (~11. 5. 1)
	〃	渡邊 義之	教 授 理 学 部	理 学 部 数学科長 (~12. 3. 31)
	〃	常川 省三	教 授 理 学 部	〃 物理学科長 (〃)
	〃	金坂 績	教 授 理 学 部	〃 化学科長 (〃)
	〃	鳴橋 直弘	教 授 理 学 部	〃 生物学科長 (〃)
	〃	竹内 章	教 授 理 学 部	〃 地球科学科長 (〃)
	〃	清棲保弘	教 授 理 学 部	〃 生物圏環境科学科長 (〃)
	〃	村井忠邦	教 授 工 学 部	工 学 部 電気電子システム工学科長 (~12. 3. 31)
	〃	河崎善司郎	教 授 工 学 部	〃 知能情報工学科長 (〃)
	〃	大住 剛	教 授 工 学 部	〃 機械知能システム工学科長 (〃)
	〃	森 克徳	教 授 工 学 部	〃 物質生命システム工学科長 (〃)
	〃	龍山智榮	教 授 工 学 部	〃 電子情報工学科長 (〃)
	〃	大住 剛	教 授 工 学 部	〃 機械システム工学科長 (〃)
	〃	黒田重靖	教 授 工 学 部	〃 物質工学科長 (〃)
〃	畠山豊正	教 授 工 学 部	〃 化学生物工学科長 (〃)	
併任解除	11. 4. 1	広岡 公夫	評議員 理 学 部	併任解除
退 職	11. 4. 1	中山 剛	教 授 工 学 部 (知能情報工学科 メディア情報工学)	平成11年3月31日限り停年退職

学

事

学位取得者



所属・職・氏名 工学部 助手 塚田 章

学位の種類 博士（工学）（大阪大学）

取得年月 平成11年2月25日

学位論文名 ヒト視覚系における明るさ知覚情報処理機構の数理モデルによる研究

論文の要旨

ヒト視覚系における明るさ知覚に関する減少を数多く記述できる機構を仮定することを主題として数理モデルを提案した。本モデルを用いて1次元の錯視、主観的図形、仮現運動、時空間周波数特性、光変換機能、順応などに対するシミュレーションを行いそれらの発生機序を説明した。また、本モデルをヒドラを用いたバイオアッセイ法の自動化に応用し、画像処理工学における従来法に比べ良好な結果を得た。この応用を通して、ヒト視覚系に錯視現象を生じる機構がなぜ必要なのかについて考察した。

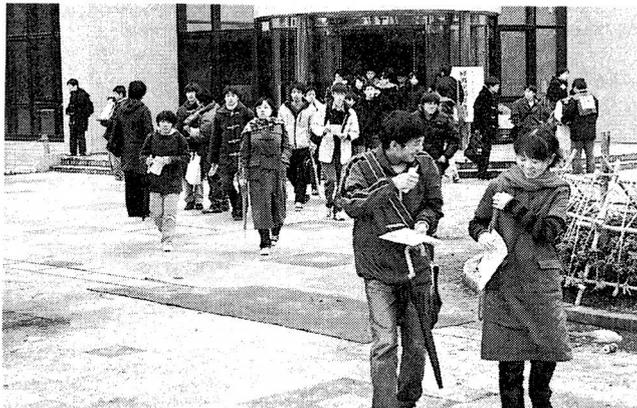
平成11年度

富山大学入学者選抜個別学力検査（後期日程）を実施

平成11年度入学者選抜個別学力検査（後期日程）が去る3月12日（金）に実施されました。

検査当日は、人文学部、教育学部、経済学部、理学部及び工学部の各検査場において、学力検査、実技検査、小論文及び面接が行われ、3月21日（日）午前10時に合格者が発表されました。

なお、後期日程の志願者数、受験者数、合格者数は次表のとおりです。



▲ 検査終了後、ほっとして帰路へ（経済学部検査場前）



▲ 検査開始を待つ（理学部検査場にて）

平成11年度 富山大学入学者選抜個別学力検査（後期日程）実施状況

学部	学科・課程		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	備 考
人文	人 文 学 科		15 人	120 人	48 人	16 人	
	国 際 文 化 学 科		12	93	34	14	
	言 語 文 化 学 科		20	196	60	28	
	計		47	409	142	58	
教育	員学 養校 成教 課育 程教	学 校 教 育 系	9	85	41	9	
		障 害 児 教 育 系	3	25	15	3	
		言 語 ・ 社 会 系	9	55	33	9	
		自 然 ・ 生 活 系	8	53	29	8	
		芸 術 ・ 体 育 系	7	83	50	7	
	育総 課合 程教	情 報 教 育 コ ー ス	4	50	20	4	
		環 境 教 育 コ ー ス	3	25	10	3	
		生 涯 ス ポ ー ツ コ ー ス	3	37	27	3	
計		46	413	225	46		
経済	昼間 コース	経 済 学 科	31	269	112	41	
		経 営 学 科	24	136	40	32	
		経 営 法 学 科	20	229	97	27	
		小 計	75	634	249	100	
	夜間 コース	経 済 学 科	4	19	13	10	
		経 営 学 科	5	28	13	7	
		経 営 法 学 科	5	29	14	11	
		小 計	14	76	40	28	
計		89	710	289	128		
理	数 学 学 科		6	40	40	6	
	物 理 学 科		6	29	13	8	
	化 学 学 科		7	82	40	8	
	生 物 学 科		5	76	40	6	
	地 球 科 学 科		9	77	77	11	
	生 物 圏 環 境 科 学 科		5	62	29	7	
	計		38	366	239	46	
工	電 気 電 子 シ ス テ ム 工 学 科		18	165	165	28	
	知 能 情 報 工 学 科		16	201	201	24	
	機 械 知 能 シ ス テ ム 工 学 科		18	141	141	26	
	物 質 生 命 シ ス テ ム 工 学 科		31	127	50	39	
	計		83	634	557	117	
後 期 日 程 合 計			303	2,532	1,452	395	
前 期 日 程 合 計			884	3,393	3,209	1,054	
一 般 選 抜 合 計			1,187	5,925	4,661	1,449	

学 内 諸 報

留学生センター長に塩澤和章工学部教授を選出



平成11年4月1日付けで本学に留学生センターが省令施設として設置されることに伴い、塩澤和章工学部教授が初代留学生センター長に選出されました。

塩澤教授は、昭和48年3月立命館大学大学院理工学研究科博士課程を単位修得退学、同年11月に同

大学から工学博士の学位を授与されました。

昭和48年4月富山大学工学部助手に採用され、同49年1月同助教授、同63年4月同教授に昇任され、現在に至っています。

センター長の任期は平成11年4月1日から2年間。

専門は、強度設計工学。

(就任の抱負)

留学生センター設置準備委員会のご努力のお陰で無事にセンターがスタートできることになり、はからずもご

推挙により初代センター長を拝命することとなりました。

21世紀における大学は、学生の多国籍化、多様化が進み、真に世界・地域に開かれた大学、大学の国際化が要求されることは必定であります。また、富山大学の基本理念-5つの柱-の一つの「地域社会や国際社会への貢献」が詠われております。これらに対応した富山大学の改革・推進の一つの拠点として、また知的国際貢献の場として「富山大学留学生センター」を位置付けたいと考えております。外国人留学生受け入れ体制の整備・充実、日本人学生の海外留学に対する教育指導と留学機会の拡大・整備、地域社会における知的国際交流の推進を通じて、国際社会で活躍する有為な人材の育成に努力したいと存じます。

本センターの教員並びに設置される留学生課の職員の皆様と協力して、目的の達成に努力し、職務を全うする所存であります。全学教職員の皆様には本センターの活動をご理解いただき、ご協力とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

水素同位体科学研究センター長に渡辺國昭教授を選出



平成11年4月1日付けで新たに設置される水素同位体科学研究センター長に渡辺國昭水素同位体機能研究センター教授が選出されました。

渡辺教授は昭和43年3月に北海道大学工学研究科修士課程を修了後、同4月に北海道大学工学部助

手に採用され、講師、助教授を歴任後、昭和55年5月に富山大学トリチウム科学センター教授に就任され、現在に至っています。

この間、平成9年6月から平成11年3月まで水素同位体機能研究センター長を併任されています。

センター長の任期は、平成11年4月1日から2年間。

専門は、水素同位体科学、真空理工学、材料科学。

(就任挨拶)

「水素同位体科学研究センター」は、平成2年度に設置された水素同位体機能研究センターの発展的改組に伴い、本年4月1日に発足する学内共同教育研究施設です。

周知のごとくエネルギーをはじめ、その他の公害から地球環境を保全することが世界的な重要課題になっており、各国において精力的な研究が展開されています。このような状況の中で、本センターは21世紀を担うエネルギー源として注目されている核融合炉及び水素エネルギーシステムの構築に向けて、その燃料である三重水素(トリチウム)、重水素及び軽水素の活用に関わる基礎及び応用技術の研究開発に貢献することを目指しています。

この種の研究・開発を標榜するセンターは我が国唯一であり、学内はもとより学外共同利用並びに国際協力に対してもしかるべき役割を担うことが期待されています。

当センターはこれまでに培われてきた学内の研究ネットワークを更に充実・発展させ、本学における「特徴ある大学」作りの一翼を担うべく、教職員一同一層の努力

と研鑽をする所存ですので、従来にもまして関係各位のご支援とご協力をお願いする次第です。

環日本海地域研究センター長に丹羽 昇経済学部教授を選出



中藤前環日本海地域センター長が平成11年4月1日付けで岡山大学教授に転出されることに伴い、丹羽 昇経済学部教授が次期センター長に選出されました。

丹羽教授は、昭和50年3月一橋大学大学院商学研究科博士課程を単位取得退学後、同50年4月富山大学経済学部助手に採用され、同51年4月同講師、同54年3月同助教授、同63年11月同教授に昇任され、現在に至っています。

この間、平成8年9月から2年間経済学部長を、同10年9月から評議員を併任されています。

センター長の任期は、平成11年4月1日から2年間。専門は、金融論。

(就任の抱負)

中藤前センター長の転出に伴い、急速4月1日付けで環日本海地域研究センター長を拝命することになりました。

環日本海地域研究センターは、自然科学・社会科学の多方面の分野にわたってこの地域の研究を推進し、富山大学を環日本海地域の学術研究の拠点とするべく、平成9年10月に学内共同教育研究施設として設置されたものであります。

昨年度は発足1年後ということもあり、十分にご理解を得られなかった点多々あったと思います。本年度は組織や事業を全面的に見直し、全学的なご支援が得られますよう努力する所存でありますので、皆様のご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

大学改革に関する図書館講演会を開催

附属図書館は、3月1日(月)図書館情報大学事務局長の森 茜氏を招き、講演会「大学改革と21世紀の図書館」を開催しました。



▲ 講演中の森事務局長

昨秋の大学審議会答申に示された大学改革の方策を受けて、全学的な組織運営体制上の図書館の関わり方や教育研究システムの柔構造化に対する図書館のあり方を検討する際に役立てることを目的に開催したものです。

講演会には、小谷館長、水上事務局長、大学改革を推進する担当職員などのほか、県内の国公立の大学図書館職員ら多数が参加し、森事務局長の豊富な体験談に最新の情報を織り込んだ講演を熱心に聴講しました。特に、メディアミックス型情報化社会に対応するものとして既に試みられている筑波大学、図書館情報大学、山口大学などの先進大学の事例紹介があり、大学改革を推進するうえで絶好の動機付けとなりました。

退職者を囲む懇談会を開催

— 教官2名 事務官3名をねぎらう —

平成10年度に定年（停年）及び勲奨により退職される方々を囲む懇談会が、去る3月15日(月)11時50分から学長室において開催されました。

懇談会では、時澤学長から退職者から一人一人に記念品が贈呈された後、永年にわたって本学につくされたことについてねぎらいの挨拶がありました。

これに対して、退職者を代表して附属図書館情報管理課専門員秋元国男さんから謝辞がありました。記念撮影に引き続き懇親会が催され、終始なごやかな雰囲気の中で古き良き思い出に話が弾みました。

なお、退職される方々は次のとおりです。

庶務部	文部事務官	佐伯光雄
経済学部	文部事務官	三井進
工学部	文部教官	島崎長一郎

工学部	文部教官	中山剛
附属図書館	文部事務官	秋元国男



▲ 時澤学長を囲み記念撮影

大学改革についての講演会を開催



▲ 講演する鬼島局長

事務局では、3月23日(火)岐阜大学事務局長の鬼島康宏氏を招き、講演会「大学改革と事務職員の役割」を開催しました。

大きく日本の社会が変化し、あらゆるものの変革が進行している中で、大学改革の方向や内容特に事務職員の役割を認識し、意識改革を図ることを目的として開催されたものです。

当日は、水上事務局長をはじめとして各部課長、事務長等60名が参加し、鬼島局長の豊富な体験と最新の情報とを交えた講演を熱心に聴講しました。

特に、これからの大学事務職員はプロフェッショナル化する必要があるという示唆について感銘を受けました。

—ファカルティ・デベロップメント (FD) —講演会・研修会を開催

ファカルティ・デベロップメント (FD) に関する講演会・研修会が去る3月23日(火)に工学部大会議室において開催されました。

工学部においては、学部教務委員会にFD推進検討委員会を設け検討を進めており、今回の講演会・研修会は

その一環として東海大学理学部の安岡先生を講師として、FDについての知識や現状を把握し、一層の理解を深めるため企画されたものです。

当日は、工学部教員のほか全学から約40人が参加し、特に研修会では活発な意見交換がありました。

(海) (外) (渡) (航) (者)

渡航の種類	所 属	職名	氏 名	渡 航 先 国	目 的	期 間
外国出張	経済学部	助教授	大 森 義 明	ア メ リ カ 合 衆 国	「アメリカにおけるジョブ・マッチングの男女差」に関する研究会等に出席, 研究発表	11. 3. 7 } 11. 3.16
	人文学部	助教授	佐々木重洋	カ メ ル ー ン	エユモジユク村のエジャカム族の仮面儀礼等に関する人類学的調査研究及び撮影	11. 3. 7 } 11. 3.23
	工学部	助教授	神 原 貴 樹	ア メ リ カ 合 衆 国	13th Biennial Carls.Marvel Symposiumに出席, 研究発表, 研究打合せ等	11. 3.13 } 11. 3.22
	教育学部	助教授	市 川 文 彦	中 華 人 民 共 和 国	「19世紀フランスにおける国内市場統合化と流通体系形成に関する計量史的研究」についてレビューを受けるため	11. 3.14 } 11. 3.21
	工学部	助教授	岡 田 裕 之	台 湾	第5回情報ディスプレイ学会アジアシンポジウムに出席, 研究発表	11. 3.17 } 11. 3.19
	工学部	助教授	磯 辺 正 治	オ ー ス ト ラ リ ア	Human Genome Meeting '99に出席, 研究発表	11. 3.25 } 11. 3.30
	工学部	助 手	加藤ジェーン	連 合 王 国	文書画像理解に関する研究打合せ	11. 3.27 } 12. 3. 1
海外研修	人文学部	外国人教師	ザビーネ ローベ	中 華 人 民 共 和 国	異文化言語・異文化コミュニケーションについての研究	11. 3.10 } 11. 3.31
	工学部	講 師	佐 竹 信 一	ア メ リ カ 合 衆 国	第5回アメリカ機械学会・日本機械学会熱工学合同会議に出席	11. 3.14 } 11. 3.21
	人文学部	助教授	呉 人 恵	ロ シ ア 連 邦	コリヤーク語の資料収集及びフィールド調査	11. 3.15 } 11. 4. 2
	人文学部	助教授	中 井 精 一	大 韓 民 国	韓国における日本語教育に関する調査・研究	11. 3.15 } 11. 3.19
	理学部	教 授	鳴 橋 直 弘	台 湾	台湾産バラ科キイチゴ属の標本調査	11. 3.18 } 11. 3.31
	人文学部	助教授	長 井 由 里	ア メ リ カ 合 衆 国	中国東北地方近現代史の研究, 文書史料収集	11. 3.20 } 12. 3.20
	教育学部 附属幼稚園	教 諭	横 山 洋 子	ア メ リ カ 合 衆 国	授業視察, 幼児教育に関する資料収集等	11. 3.21 } 11. 3.29

渡航の種類	所 属	職名	氏 名	渡 航 先 国	目 的	期 間
海外研修	教育学部	助教授	市 瀬 和 義	フランス, 連合王国	「近代科学の源流を探る」研究資料収集	11. 3.23) 11. 4. 2
	人文学部	講 師	青 木 恭 子	ロ シ ア 連 邦	日ロ文化交流に関する意見交換, 情報・資料収集	11. 3.23) 11. 3.26
	人文学部	助教授	葉 柳 靖 子	ス イ ス	現代ドイツ語圏文学に関する資料収集	11. 3.25) 11. 4.14
	人文学部	教 授	藤 本 幸 夫	大 韓 民 国	朝鮮本の調査と研究	11. 3.27) 11. 4. 7
	経済学部	助教授	角 森 正 雄	ア メ リ カ 合 衆 国	カリフォルニア州民事訴訟法制度に関する資料収集	11. 3.29) 11. 4. 8

(外 国 人 来 訪 者)

氏 名 (国 籍)	本国における 所属機関・職名	来 学 目 的	本学受入れ先	期 間
Alan Stephenson (イギリス)	ニューカッスル 大学物理学教室 教 授	研究打合せのため	理学部・助教授 酒 井 英 男	11. 3.26) 11. 3.27

職 員 消 息

〈住所変更〉

部 局 名	職 名	氏 名
人 文 学 部	教 授 (人間基礎論)	木 下 喬
人 文 学 部	助 教 授 (ヨーロッパ言語文化)	徳 永 淑 恵
経 済 学 部	教 授 (基礎法)	伊 藤 良 弘
工 学 部	講 師 (機械制御情報工学)	佐 竹 信 一
工 学 部	教 務 職 員 (プロセス工学)	宮 嶋 俊 明
工 学 部	事 務 補 佐 員 (電子制御工学)	竹 内 美 貴

〈改 姓〉

部 局 名	職 名	氏 名	旧 姓
人 文 学 部	助 教 授 (ヨーロッパ言語文化)	徳 永 淑 恵	中 島

主 要 行 事

本 部

- 3月1日 第6回大学改革推進委員会情報公開専門委員会
- 2日 第8回教養教育委員会企画専門委員会
第8回自己点検評価委員会研究活動等専門委員会
- 2日～3日 臨時東海・北陸地区国立大学事務局長会議
(静岡大学)
- 3日 第3回自己点検評価委員会教育活動専門委員会
- 4日 第7回大学改革推進委員会情報公開専門委員会
- 5日 第12回教養教育推進特別委員会
事務改善委員会第4部会
- 6日 平成11年度入学者選抜個別学力検査(前期日程)合格者発表
- 8日 第7回自己点検評価委員会管理運営専門委員会
- 9日 第9回大学改革推進委員会管理運営専門委員会
- 10日 第5回国際交流委員会学術交流部会
- 11日 第6回セクシャル・ハラスメント等対応検討委員会
第11回大学改革推進委員会教員人事専門委員会
第15回国際交流委員会留学生部会
任用実務担当者研修会(金沢市)
- 12日 平成11年度入学者選抜個別学力検査(後期日程)
- 14日～15日 平成11年度入学者選抜個別学力検査(前期日程)合格者入学手続
- 15日 退職者を囲む懇談会
- 16日 第9回自己点検評価委員会研究活動等専門委員会
- 17日 第13回教養教育推進特別委員会
- 18日 北陸地区体育大会顧問教官会議
第8回自己点検評価委員会管理運営専門委員会
第3回学生生活協議会体育部会

- 21日 平成11年度入学者選抜個別学力検査(後期日程)合格者発表
- 23日 第7回セクシャル・ハラスメント対応等検討委員会
- 24日 大学院工学研究科(博士後期課程)学位記授与式
北陸地区体育大会代表者会議
- 25日 平成10年度学位記授与式(富山市芸術文化ホール)
名誉教授との懇談会(名鉄トヤマホテル)
第14回教養教育推進特別委員会
- 27日 平成11年度入学者選抜個別学力検査(後期日程)合格者入学手続
- 30日 職員教養研修閉講式

人 文 学 部

- 3月1日 独立大学院研究科(博士課程)設置に関する人文学部及び経済学部の合同委員会
- 3日 学部将来計画委員会と学部予算委員会の合同委員会
- 4日 教授会
学部将来計画委員会
学部国際交流委員会
学部情報処理委員会
- 5日 学部教務委員会
- 10日 教授会
教授会(人事)
人文科学研究科委員会
- 18日 学部将来計画委員会
平成11年度前学期授業時間割担当者会議
- 19日 学部入学者選抜方法検討委員会(持回り)
教授会
- 23日 学部就職指導委員会
学部予算委員会
- 24日 独立大学院研究科(博士課程)設置に関する人文学部及び経済学部の合同委員会
教授会
人文科学研究科委員会
- 29日 学部情報処理委員会

30日 「人文学部のしおり」編集委員会
31日 学部将来計画委員会

教 育 学 部

3月1日 学部学生生活委員会
4日 学部入学試験委員会
教授会
8日 学部予算委員会
9日 教育学研究科委員会小委員会
学部教務・学生生活合同委員会
学部教務委員会
10日 学部研究室等配置検討委員会
教育学研究科委員会
教授会
人事教授会
11日 附属養護学校卒業式
15日 附属幼稚園修了式
附属学校運営委員会
16日 附属小学校卒業式
17日 附属中学校卒業式
18日 附属幼稚園終業式
学部改組ワーキンググループ会議
日本教育大学協会第一常置委員会
19日 教育実習委員会
20日 学部入学試験委員会
教授会
人事教授会
附属小学校、附属中学校及び附属養護学校修了式
24日 学部研究室等配置検討委員会
教育実習検討委員会

経 済 学 部

3月1日 生涯学習・広報委員会
独立大学院博士課程設置に伴う合同打合せ会
3日 学部入学試験委員会
4日 図書等委員会
教授会
9日 学部教務委員会
10日 学部就職指導委員会
人事教授会
経済学研究科委員会

教授会
15日 学部国際交流委員会（持回り）
17日 学部就職委員会
防火・防災対策委員会（持回り）
情報処理委員会（持回り）
18日 博士課程設置検討委員会
総務委員会
将来構想等検討委員会
学部教務委員会
19日 学部入学試験委員会
教授会
経済学研究科委員会
24日 独立大学院博士課程設置に伴う合同打合せ会
29日 将来構想等検討委員会（持回り）

理 学 部

3月4日 理学部案内編纂委員会
教授会
5日 学部入試改善委員会
8日 学部情報化対策委員会
学科長会議
9日 学部学生生活委員会
10日 理工学研究科博士前期課程理学部会
教授会
教授会（人事）
理工学研究科博士前期課程理学部会
専任教授会
17日 学部教務委員会
19日 教授会
教授会（人事）
23日 理工学研究科博士前期課程理学部会教務検討小委員会

工 学 部

3月3日 学部合格者検討委員会
4日 学部国際交流委員会
教授会
専任教授会
8日 「工業（専門）高校卒業生を対象としたカリキュラム編成及び教育方法のための調査研究」プロジェクト担当者会議（富山大学工学部）
9日 学部学生生活委員会

- 学部教務委員会
10日 教授会
工学研究科委員会
理工学研究科博士前期課程工学部会
工学研究科博士後期課程委員会
16日 温交会送別会
17日 学部施設整備委員会
18日 工学部外国人留学生と教職員等との懇談会
19日 学部合格者検討委員会
教授会
専任教授会
23日 ファカルティ・ディベロップメントに関する
講演会及び研修会
(講師：東海大学理学部教授 安岡 高志)

附属図書館

3月3日 年史編纂委員会

地域共同研究センター

3月18日 大学院生教育講座

生涯学習教育研究センター3月8日 生涯学習推進を図るための講演会・研究会
(講師：長崎大学生涯学習センター長)



平成11年3月卒業生数

○ 学 部

学部 学科 (課程)		入学年度							合 計	
		9	8	7	6	5	4	3		
人文学部	人文学科			67 (2)	7 (1)			1	75 (3)	
	国際文化学科			40 (2)	3	1			44 (2)	
	言語文化学科			64	8	1			73	
	計			171 (4)	18 (1)	2		1	192 (5)	
教育学部	小学校教員養成課程			93	4			1	98	
	中学校教員養成課程			44	1	1			46	
	養護学校教員養成課程			20	1				21	
	幼稚園教員養成課程			30	1				31	
	情報教育課程			39	1	1			41	
	計			226	8	2		1	237	
経済学部	昼間 主 コース	経済学科			133 (3)	10	2			145 (3)
		経営学科			115 (4)	8	2			125 (4)
		経営法学科			85	6	2			93
		計			333 (7)	24	6			363 (7)
	夜間 主 コース	経済学科			14	1	2			17
		経営学科			17		1	1		19
		経営法学科			17					17
		計			48	1	3	1		53
	計			381 (7)	25	9	1		416 (7)	
	理学部	数学科			36	2	1	1	1	41
物理学科		2		31	6	5	1	1	46	
化学科		3		34	3				40	
生物学科		3		27	1	1 (1)		2	34 (1)	
地球科学科		2		17	4	2	2		27	
生物圏環境科学科		2		27	6				35	
計		12		172	22	9 (1)	4	4	223 (1)	
工学部	電子情報工学科	23		86 (3)	18	8 (1)	1		136 (4)	
	機械システム工学科	12 (1)		67 (1)	20	6	2		107 (2)	
	物質工学科	6	1	56	14	4			81	
	化学生物工学科	5	1	39 (1)	7	6			58 (1)	
	計	46 (1)	2	248 (5)	59	24 (1)	3		382 (7)	
合 計	58 (1)	2	1,198 (16)	132 (1)	46 (2)	8	6	1,450 (20)		

(注) 1. ()内は、外国人留学生で内数。

2. 平成8, 9年度入学卒業生は、3年次編入学者。

平成11年3月修了者数

○ 大 学 院

研究科	専 攻	入学年度					合 計	
		10	9	8	7	6		
人文学研究科	文化構造研究専攻		5				5	
	地域文化研究専攻		8 (2)				8 (2)	
	日本・東洋文化専攻				3		3	
	西洋文化専攻			1			1	
	計		13 (2)	1	3		17 (2)	
教育学研究科	学校教育専攻		7		1		8	
	教科教育専攻		22 (1)	1			23 (1)	
	計		29 (1)	1	1		31 (1)	
経済学研究科	地域・経済政策専攻		2 (1)				2 (1)	
	企業経営専攻		7 (5)				7 (5)	
	計		9 (6)				9 (6)	
理学研究科	数 学 専 攻		10 (1)				10 (1)	
	物 理 学 専 攻		16 (3)				16 (3)	
	化 学 専 攻		14				14	
	生 物 学 専 攻		8	1			9	
	地 球 科 学 専 攻		5	1			6	
	生物圏環境科学専攻		7				7	
	計		60 (4)	2			62 (4)	
工学研究科	前 期	電子情報工学専攻		55 (8)	1			56 (8)
		機械システム工学専攻		37 (2)				37 (2)
		物質工学専攻		33 (1)	1			34 (1)
		化学生物工学専攻		15				15
		計		140 (11)	2			142 (11)
	後 期	システム生産工学専攻			2			2
		物質生産工学専攻			6 (2)	2 (1)		8 (3)
		計			8 (2)	2 (1)		10 (3)
理工学研究科	前 期	物質工学専攻	1 (1)				1 (1)	
		計	1 (1)				1 (1)	
合 計		1 (1)	251 (24)	14 (2)	6 (1)		272 (28)	

(注) 1. () 内は、外国人留学生で内数。

2. 平成10年度入学修了者1名は、大学院学則第21条第1項ただし書き適用者。

平成10年度大学院研究科修了者一覧

〔人文科学研究科（修士課程）〕

専攻	氏名	論文題目
文化構造研究 (5人)	田中幸生	縄文時代晩期から弥生前期における土器の質的变化について
	山崎雅恵	富山県射水平野における自然環境と農耕
	杉山和明	「有害環境浄化」をめぐる包摂と排除の社会地理学的考察
	齋藤由佳	1920年の“性”意識 —『主婦之友』を通して—
	原和子	亀谷凌雲の回心 —仏教からキリスト教へ—
地域文化研究 (8人)	本多真美子	御判御教書の変遷
	油井晶代	中世公家社会における家格と職能 —家格の形成とその影響—
	高留成	唐宋時代日本留学僧之研究
	島先厚至	呉・南唐政権と商業政策 —長江流域を中心にして—
	江村佳代	The Faith in the Immortality of Love : the Relationship between Catherine and Heathcliff in <u>Wuthering Heights</u>
	長谷川香	Inevitability of Tess's Tragedy
	山井武	Female Characters in Flannery O' Connor's Fiction
	ベルコヴィチ イリーナ	ロシアと日本の昔話の比較研究
日本・東洋文化 (3人)	石丸綾子	九・十世紀における対外政策について
	加藤亜	『行幸道路』と近代日本都市計画
	近藤俊彦	中世東寺の対公武交流
西洋文化 (1人)	林敬子	On Holocaust Literature

〔教育学研究科（修士課程）〕

専攻	専修	氏名	論文題目
学 校 教 育 (8人)	学 校 教 育	阿久津理	大学進学者の地域間移動に関する考察 —大学地方分散化政策の影響—
		阿部美穂子	重度重複障害児のコミュニケーション指導 —ムーブメント教育からのアプローチ—
		有澤義一	「新総合学習」構想上の視点と課題 ～教科教育との関連化と小・中学校の系統性をふまえて～
		鎌仲徹也	生涯学習社会における学校の役割 —「学び」という視点からの一考察—
		谷川淳	生徒が主体になる中学校社会科の授業の在り方についての一考察
		中川幸彦	不登校診断尺度作成の試み
		板東美希	現代社会における子どもの「遊び」について
		進藤章人	「存在としての教師」について
	国語教育	稲垣朱美	論理的叙述能力の指導に関する研究
		前田香織	国語科教育における「情報」に関する研究

専攻	専修	氏 名	論 文 題 目
教 科 教 育	数 学 教 育	岡 田 和 之	中学校教育における数字嫌い
		藤 村 暢 彦	リーマンのゼータ関数の零点に関するグラフ
		前 田 和 則	数学教育における評価の在り方
	理 科 教 育	井 簡 章 代	日本産野生哺乳類の小規模固体群内における寄生蠕虫相の研究
		梅 田 好 子	義務教育特に小学校における減災教育
		高 野 克	自生胞子で増殖する単細胞緑藻とその近縁藻の分子系統
		時 田 いずみ	飛騨外縁帯青海地域における蛇紋岩メランジュの変成作用とテクトニクス
		中 川 孝 子	茶の活性酸素消去作用 -in vitro in vivo. からのアプローチ-
	音 楽 教 育	居 島 仁 美	論文：ソフトウェア市場における使用者サイドと制作者サイドとのよりよき関係の構築について～ 音楽系エデュテイメント・ソフトを中心として～ 作品：image 碧水
		土 肥 真 人	鑑賞指導の構想と実践
		任 暁 剛	論文：日本、中国の歌曲、音楽教育への考察 作品：(一) 山田耕筰の作品 3 曲 (二) 中国民族歌曲 2 曲
	美 術 教 育	小 林 志奈乃	論文：ヘンリー・ムーア -空洞表現の多様性とその魅力について- 作品：人体構造を用いた造形表現
		中 井 史 枝	論文：重層的絵画の研究 ～重ね描きという行為の追求をとおして～ 作品：重層的絵画の研究 ～重ね描きの追求をとおして～
	体 育 健	阿 部 美津代	心拍数からみた小学6年児童における1週間の身体活動量
	技 術 教 育	安 達 涉	中学校における情報教育推進のための技術・家庭科の役割の検討
		稲 葉 英 明	高齢社会を意識したホームページのバリアフリー化に関する研究
		浦 崎 久美子	コンピュータ・ネットワークを利用した大学における作文授業の実践と評価
		中 西 隆 重	ケニアの教育制度と技術教育の現状
八 田 剛 志		クロスカリキュラムにおける技術教育に関する研究 -福祉教育と技術教育-	
平 井 重 春		動画像通信メディアを用いた遠隔教育に関する研究	
(23人)	教 育 政	平 田 理 恵	吸湿性を付与した衣服材料の温熱的特性と着用性能

〔経済学研究科（修士課程）〕

専 攻	氏 名	論 文 題 目
地 域 ・ 経 済 政 策 (2人)	島 田 秀 喜	国際課税と移転価格の分析
	章 競	中国の経済改革開放下の沿海都市上海における機械・金属工業の発展に関する研究
企 業 経 営 (7人)	里 洋 子	相続財産の処分と相手方の保護
	津 田 栄理奈	不動産の時効取得における所有権移転と課税の基準時
	陳 盈 村	日本企業のグローバル競争戦略-マーケティングの視点から
	陳 翔	中国自動車産業における技術移転に関する研究
	陳 増 光	アジアの通貨危機と中国への影響
	鄭 劍	非営利組織のリスク・マネジメントに関する研究

専 攻	氏 名	論 文 題 目
	汪 伯 陽	現代中国市場における外資の競争戦略

[理学研究科(修士課程)]

専 攻	氏 名	論 文 題 目
数 学 (10人)	筏 井 康 成	確率過程と極限定理
	大 田 佳 彦	リー環とルート系の研究
	乙 田 英 夫	二階差分方程式の振動理論
	佐々木 勝 則	リー環のコホモロジーと表現論
	豊 田 恭 平	測度問題について
	平 山 裕 幸	階数1の付値環について
	深 沢 有 基	微分不可能関数について
	松 村 一 央	一階差分方程式の振動理論
	村 田 和 雄	付値環の階数と孤立部分群について
	閻 理 垣	レヴィ過程の研究
物 理 学 (16人)	赤 丸 悟 士	CeNi ₂ Al ₆ とLaNi ₂ Al ₆ との極低温領域のドハース・ファンアルフェン効果と磁気抵抗の実験的研究
	阿 部 徹	SmNi ₂ Sn ₂ 単結晶の四重極相互作用とCePd _{1-x} NixAl単結晶の局在・非局在
	伊 藤 弘 幸	比熱計測用3Heクライオスタットの制作とCe化合物の低温比熱
	大 森 敬 太	プロピオニトリル分子の振動励起状態における回転遷移の解析
	小 野 悟	Al-Pd-Mn薄膜の固相反応
	菅 野 充 加	ゲージ場に対するいくつかの考察—結び目の数学からのアプローチを中心に—
	窪 和 人	ダイオードレーザーによる分光装置の開発
	上 里 敦	KrH ⁺ , ArD ⁺ 及びその同位体イオンの遠赤外分光
	丹 崎 本 樹	波長可変炭酸ガスレーザーによる分光
	中 村 五 郎	CePd _{1-x} NixAlの比熱
	永 井 貴 史	水の振動励起状態の遠赤外レーザー分光
	安 田 純 一	ホウ素炭化物系超伝導体 (Rni ₂ B ₂ C) 単結晶の超伝導特性
	山 形 啓 之	統一理論における素粒子現象
	王 利	内部回転を持つ分子の遠心力歪みの研究
	千 光 源	D ₂ O分子の遠赤外レーザー分光
	田 炳 学	SolitonとしてのMonopole
化 学 (14人)	岩 井 亜 希 子	修飾担持ニッケル触媒によるプロキラルケトンのエナンチオ面区別水素化に関する研究
	小 澤 篤 史	ニッケル微粉触媒を用いたβ-ケトエステルのエナンチオ面区別水素化に関する研究

専 攻	氏 名	論 文 題 目
	御旅屋 公三子	パラジウム(Ⅱ)触媒を用いた立体選択的な分子内環化反応の開発と生物活性天然物合成への応用
	京 藤 綾 子	種々の六座配位子を配位した3価パラジウム錯体の合成と性質
	小 林 亮 司	交差供役化合物の合成と性質
	澤 田 隆 司	水素ガスの金属粉末への吸着現象の周波数応答法による速度論的研究
	志 水 守	エチレン-メタクリル酸イオノマー-Zn塩の吸湿に伴う構造変化
	南 条 吉 保	金属材料中の水素透過に及ぼす不均質化の影響
	西 田 航	Pd-被覆によるZr系合金の表面改質-水素同位体の直接回収への応用-
	橋 本 浩 和	溶液中での不均一系触媒反応の周波数応答法による速度論的研究
	兵 藤 量	含フッ素キラル合成素子の構築とその効率的応用およびPd(Ⅱ)触媒を用いるtetrahydrofuran環の立体選択的構築
	古 幡 岳 也	分子内Heck反応を用いたセンブラン骨格の新規な合成法の開発及び抗HIV活性を有するTerpestacinの合成研究
	細 川 智 康	触媒酸化法によるメタンからの水素の回収
	安 松 拓 洋	Pd基合金による水素吸収の熱力学的同位体効果
生 物 学 (9人)	佐々木 順 也	ゾウリムシの繊毛運動制御にかかわるプロテインフォスファターゼ
	石 川 準 一	ゴマの脂肪酸デサチュラーゼ遺伝子の単離と解析
	折 川 武 司	スイバとヒメスイバの性と染色体
	佐 野 常 世	ネナシカズラのホメオボックス遺伝子の解析
	柴 田 未知恵	ネナシカズラにおける光応答性遺伝子の構造と発現
	鈴 木 朋 宏	タデ科2属の細胞分類学的研究
	田 中 進	ハムスターの下垂体ゴナドトロピン産生細胞における機能調節
	村 上 知 里	南極産モミジガイ科のヒトデ <i>Psilaster charcoti</i> の発生および系統学的考察
	山 田 剛	ハリナガムネボソアリの性比に関する行動生態学的研究
地 球 科 学 (6人)	藤 野 丈 志	熱的にみた雷結晶の成長
	押 野 浩 行	旧石器時代の古地磁気瓢箪穴
	佐々木 みぎわ	Geotectonic History of the Motai-Nagasaka area, Southern Part of the Kitakami Mountains, Northeast Japan
	白 井 幸太郎	東クイーンモードランドおよび西エンダービーランドにおける岩石磁気と磁気異常の研究
	手 塚 大 貴	第四紀火山堆積物の岩石磁気・古地磁気
	安 江 健 一	阿寺断層系のネオテクトニクス
生物圏環境科学 (7人)	池 田 知 哉	富山と大津における大気降下物の化学組成と同位体比
	石 山 美 歩	ナホトカ号流出重油からの重油分解菌の単離
	岡 田 知 子	cGMP依存的にリン酸化される繊毛内タンパクの二次元電気泳動による分離の試み
	川 嶋 洋 一	ゼンマイ胞子葉緑体におけるタンパク質リン酸化酵素
	木戸口 三 津	街路樹の葉の炭素同位体比と大気環境

専 攻	氏 名	論 文 題 目
	寺 山 晃 子	立山弥陀ヶ原におけるメタンのフラックスと要因
	西 尾 晴 由	水中の第三級長鎖アルキルアミンの濃縮/吸光光度定量に関する研究

[工学研究科(博士前期課程)]

専 攻	氏 名	論 文 題 目
電子情報工学 (56人)	青 井 英 治	電力分配回路に関する研究
	麻 場 伸 一	ホップフィールドネットワークの連想記憶シュミレーション
	新 井 聡	Javaによるシーケンス制御用言語のための統合化開発環境の構築
	荒 川 豊 文	共蒸着法によるBi系酸化物超伝導体薄膜のMBE成長
	池 田 一 也	ネマチック液晶材料のねじれ弾性定数の評価に関する研究
	磯 田 淳 平	ナチュラルリソグラフィ法による真空マイクロデバイスの作製に関する研究
	内 山 茂 樹	硫酸グリシンのスイッチング機構に関する研究
	岡 本 哲 一	Si(111)基板上的InSb薄膜のヘテロエピタキシャル成長
	奥 原 徹	ポリパラフェニレン超薄膜の配向制御による偏光ELに関する研究
	加 藤 敏 秀	電気的消霧に関する研究 -電界中における霧粒子の振る舞い-
	河 原 智	短時間呈示における最適表示色数に関する研究
	神 林 真 史	音響インテンシティの3次元有限要素解析
	刑 部 太 輔	Nonlinear Plasma Maser driven by Electron Beam Instability
	黒 谷 忠 司	電動自転車直流通電機速度制御に関する研究
	化 生 正 人	有機電界発光素子の発光機構に関する研究
	小坂橋 淳	メンタルモデルの形成に関する研究
	越 田 陽 一	DNAモーターの電気的モデルに関する研究
	小 林 耕 人	微細形状によるネマチック液晶分子の配向特性に関する研究
	小 林 宏 教	対話による言語知識獲得方式の研究
	小 丸 明 宏	双円錐ホーンによるパルスアンテナに関する研究
	酒 井 英 生	心電図波形の特徴を利用したその効率的記録法に関する研究
	酒 井 英 徳	雷鳴による雷道の評価に関する研究
	澤 柳 一 美	T4ファージのシュミレーションに関する研究
	志 知 正 文	LATGSP単結晶の強誘電特性に関する研究
	柴 原 章 宏	画像処理によるヒドラを用いた生理活性物質の微量定量に関する基礎的研究
	常 少 英 男	NANDデータを用いた論理回路の教育用アプリケーションに関する研究
関 谷 昌 英	水滴の帯電現象を利用した地上電界計測装置の開発	

専 攻	氏 名	論 文 題 目
	高 木 徹 之	在宅健康管理のための生体計測技術に関する研究
	高 林 武 史	LED電光表示板の視認特性と色光の最適表示輝度に関する研究
	田 中 威	簡易型方向性結合器に関する研究
	長 徳 典 宏	物理的な四角形及び主観的な四角形の明るさ知覚に関する研究
	辻 貴 一	単相交流誘導反発型磁気浮上回転システムに関する研究
	寺 田 昌 司	濃霧中における色光の視認特性に関する研究
	出 口 圭太郎	コンピュータグラフィックスにおけるレンダリング法に関する研究
	道 具 志 朗	Turbo-Codeの特性解析—インターリーブ特性の研究—
	中 西 早 人	SiGe系量子井戸の作成とその2次元電子の電気的特性
	南 部 公 孝	降雨の絶縁破壊現象に及ぼす影響の評価
	二 澤 幸 生	Ge/Si(001)基板上のInSb薄膜のヘテロエピタキシャル成長
	林 哲 也	二相交流磁気浮上式リニア誘導モータに関する研究
	松 村 忠	呼吸, 咀嚼, 嚥下運動リズム間の協調関係とその姿勢による影響
	三日市 康 博	因子分解法を用いたステレオ画像による物体の3次元再構成に関する研究
	宮 野 潔	地上で観測される電界から雷雲電荷分布を推定する手法の検討
	宮 村 貴 純	リング型ハイブリッド回路に関する研究
	宮 本 剛	色情報と動きベクトルを用いた動画画像からのオブジェクト抽出の検討
	湯 野 康 治	可変速風力発電模擬システムに関する研究
	吉 岡 哲 二	画質評価尺度に基づいた画質主導型JPEG符号化の検討
	吉 森 幸 一	インクジェット法による有機EL素子の作製とその電気光学的特性
	夏 广 旨	マスクパターンの熱変形三次元有限要素解析
	金 大 申	階層概念を用いたインターネット検索システムに関する研究
	徐 天 晟	最適例及び下位範疇化フレームを用いた動詞情報の獲得方式の研究
	赵 紅	ユーザインターフェースを用いた環境型教育システムの構築
	赵 大 我	結合線路形フィルタの特性解析
	文 涛	有限要素法を用いた発電機タービン羽根の振動解析
	木塔里甫 莫台妥提	伝送線路で構成される方向性結合器に関する研究
	李 帆	PWM制御負荷をもつ三相ダイオード整流回路の高調波計算に関する研究
	間 藤 真 人	ネットワークニュースを対象とした情報収集方式の研究
機械システム工学 (37人)	青 木 修	放熱基板用複合材料の熱物性値に関する実験的研究
	浅 井 晋 平	焦点はずれ画像からの形状計測
	五十嵐 正 男	セレーアドフィン付管群の熱流動特性

専 攻	氏 名	論 文 題 目
	市 川 智 昭	スイッチト・アライバル・システムのカオス制御
	稲 谷 正 志	線接触ハイポイドギヤ歯面の接触に関する弾性学的考察
	大 矢 勇 人	GAを用いたファジィ制御器の設計とその研削切断機への応用
	小 原 啓 志	起上がりこぼし型跳躍移動機械の駆動制御
	金 田 仁 介	高速気液二相流の発達領域における流動特性
	加茂川 大	SCM440鋼の腐食疲労強度に及ぼす各種表面改質処理の影響に関する研究
	小 林 弘 和	アルミニウム合金の疲労強度特性に及ぼすアルマイト処理の影響に関する研究
	佐 藤 雅 彦	Al-Si合金の砥石切断性に及ぼす送り速度の影響に関する研究
	杉 本 智 博	液中泳動マイクロロボットのための要素開発研究
	竹 内 孝 之	アルミニウム合金粉末のECAP固化成形によるマイクロ組織と機械的性質の改善
	竹 内 芳 徳	改質アルミニウム合金の耐摩耗性および機械加工性に関する研究
	館 研 一	自励オンオフ駆動制御される多足補助型跳躍マイクロロボット
	田 中 達 也	水を含む微細多孔構造粒子充填層の凝固融解に関する実験的研究
	谷 口 政 磯	摩擦熱測定による時効損傷の評価に関する研究
	天 日 崇 介	デジタルコントローラによる静圧気体スラスト軸受の特性改善
	戸 上 勝 彦	ダイヤモンドレルによる矩形中空押し材の内径寸法精度の改善
	中 田 博 幸	アルミニウム合金の腐食疲労過程における腐食ピット成長特性と電気化学的検討
	西 端 忠 之	カオス・アトラクターを利用した秘匿通信システムの解析
	延 野 貴 俊	アルミナセラミックスのクリープフィード研削性に及ぼすツルージングの効果に関する研究
	服 部 功	V形14気筒機関の起振モーメントに関する研究
	花 井 哲 治	SiC粒子強化アルミニウム基複合材料の高速超塑性特性
	幅 栄 樹	液体支持歯面を用いたソース・シンク駆動進行波型リニアマイクロフィーダ
	挽 正 治	高速フレーム溶射法によるWC/Co溶射被覆網のフレット疲労特性
	日 南 敦 史	だ円振動子対列で構成される線毛群型リニアマイクロフィーダ
	吉 川 健 作	電気粘性流体の回転体まわりの流動特性と回転機器への応用
	前垣内 智 章	超高分子量ポリエチレンとセラミックス間の摩擦摩耗特性
	松 田 貴 之	12Cr鋼の高温低サイクル疲労強度特性に関する研究
	水 野 聡	トポグラフィ破面解析による表面改質鋼の内部疲労き裂伝ば挙動
	安 井 崇 博	半連続押し出し加工におけるピレット表皮層の挙動
	矢 田 心	スタッガード配列スパイラルフィン付管群の渦発生特性
	山 内 伸 恭	転がりすべり接触を受ける被覆半無限体界面き裂の干渉効果および分岐特性
	吉 永 和 治	誘導起電力を用いた跳躍移動ロボットの駆動制御

専 攻	氏 名	論 文 題 目
	LEW SAN LAI	改良9 Cr-IMo鋼厚肉鍛造材の高温低サイクル疲労強度特性に及ぼす試験温度およびひずみ波形の影響
	林 劍 峰	高クロム鋼の被削性に及ぼす工具形状の影響
物 質 工 学 (34人)	荒 城 昌 弘	アルミナ粒子分散Al-Cu-Mg合金基複合材料の時効過程
	一 色 治 美	水溶液の加熱冷却による二重拡散対流の数値解析
	上 田 浩 之	液中固体面への懸濁微粒子の付着, 脱着の検討
	上 田 雅 史	ゾルゲール法TiO ₂ の性質におよぼす溶媒効果
	大 原 史 隆	Cu添加したAl-1.0mass%Mg ₂ Si合金における粒界破断
	小 川 和 郎	Studies on the structural properties and application of starch
	開 地 哲 也	アルキルメラミンを含む環状シアナミド類のHPLC分析と熱特性
	笠 島 大 士	揮発性溶媒を含む非親水性多孔質材料の乾燥速度相関法
	梶 山 俊 重	回転振動傘型円板による異形粒子群の分離 - 3次元形状判別に基づく分離特性の検討 -
	角 倉 孝 典	メカニカルアロイング法によるCu-C系強制固溶体の創製と熱的挙動
	金 田 哲 生	レーザーホログラフィーを用いた2層系二重拡散対流の可視化
	河 村 政 輝	微細粒子群の湿式形状分離装置の開発 - 液中での粒子安定供給法に関する検討 -
	川 守 祥 央	2,3-ジメチルスピロ [シクロプロパン-1,1'- (1H-アズレニウム)] イオンの合成と反応に関する研究
	北 賢 二	Dy _{1-x} Y _x Ni ₂ B ₂ Cの超伝導と磁性
	久 保 卓 也	鋼被覆TiC粉末を用いたレーザー合金化法による5083アルミニウム合金の表面改質
	香 田 秀 文	H ₂ SO ₄ -NaCl水溶液中におけるSUS304鋼の腐食形態におよぼす微量元素 (Cu, Mo) の影響
	小 林 幸 司	ニッケル-水素電池用Mg ₂ Ni電極の充放電サイクル特性の改善
	小 林 憲 彦	Nd-123系酸化物超伝導体の元素置換による超伝導特性
	朱 宮 裕 貴	新規な9,10-アントラキノンの生成反応に関する研究
	小 路 口 正 志	液中造粒の平衡造粒粒子径への界面物性の影響
	菅 原 智 志	6063アルミニウム合金におけるAl-Fe-Si系金属間化合物
	砂 場 学	2成分溶媒を含む高分子溶液の乾燥モデル
	戸 嶋 大 輔	粉塵を伴う回転円錐型容器による複合微細造粒粒子の連続生成
	直 井 勉	Al-1.0mass%Mg ₂ Si合金における時効析出物の結晶構造
	西 脇 元 哉	金属アンミン錯イオンの高温加水分解および溶媒逆抽出法による酸化物微粒子の作製
	沼 田 聰	広い温度範囲における金属・化合物の電気抵抗および熱電能の研究
	浜 田 高 敦	低レイノルズ数領域における伝熱促進管の総合的性能評価
	林 秀 一	ジシクロヘプタ [a, e] シクロオクテンの合成研究
	林 俊 秀	Al-C系混合粉末のメカニカルアロイング
	牧 野 治	非晶質Fe ₅₂ Ni ₂₈ B ₂₀ 合金の昇温による結晶相形成過程

専 攻	氏 名	論 文 題 目
	宮 本 恭 臣	シクロヘプトリエン縮環系化合物の合成と反応に関する研究
	吉 田 新	連続鋳造圧延過程における6151アルミニウム合金線の組織変化と鍛造性
	FADILAH HASIM	半円柱乱流促進体を用いた伝熱促進の有限要素法による数値解析
	塚 田 将	Bi系の酸化物超伝導体におけるPb, Agの置換・添加効果
化学生物工学 (15人)	金 山 直 樹	Preparation and Characterization of Self-Assembled Monolayers Carrying Various Functional Groups.
	古 角 憲 弘	荷電高分子微粒子の規則構造形成におよぼす器壁表面電荷の影響
	斎 藤 益 満	T細胞白血病とT細胞受容体遺伝子座異常
	住 田 泰 輝	バクテリアによるジオールの酸化とジケトン類の還元
	関 隆 一	Studies on the Chemistry of <i>trans</i> -Decalin-9-sulfenic Acid Derivatives
	高 木 健 作	二酸化チタンを用いた水中のフタル酸ジエステル可塑剤の光触媒分解
	田 川 幸 二	Functions of Novel Amphiphiles with Many Pendent Mannose Residues.
	都 甲 真 紀 子	Suppression subtractive hybridization法を用いた成人T細胞白血病関連遺伝子の単離
	福 田 晃 生	Molecular Recognition by Self-Assembled Monolayer of Cyclodextrin on a Gold Electrode
	丸 山 励 治	<i>Bacillus cereus</i> による芳香族カルボン酸類のアミド化
	安 井 文 彦	生命科学現象の分子レベルでの解析に関する研究
	山 内 慶 将	脂質二重膜によって誘導される両親媒性ペプチドの β 構造
	山 村 栄 虎	Purification and molecular characterization of <i>Escherichia coli</i> Polynucleotide Phosphorylase (PNase)
	山 本 直 毅	環境因子に対する植物の表面電位の応答
吉 住 晃	Modification of Inorganic and Organic Substrates with Functional Polymer Molecules	

[理工学研究科(博士前期課程)]

専 攻	氏 名	論 文 題 目
物質工学	宋 存 江	微生物による生分解性プラスチックの生産及び生分解性に関する研究

[富山大学大学院学則第21条第1項ただし書き適用者(在学期間の特例)]

[工学研究科(博士後期課程)]

専 攻	氏 名	論 文 題 目
システム生産工学 (2人)	石 川 哲	高精度オプティカルフロー推定に関する研究
	西 田 均	電気粘性流体を応用した回転型デバイスの特性に関する研究
物質生産工学 (8人)	柿 川 真 紀 子	Genome structure and functions of <i>Lactobacillus plantarum</i> temperate phage ϕ gle (乳酸桿菌(<i>Lactobacillus plantarum</i>) アンペレートファージ ϕ gleのゲノム構造と機能)
	杉 本 潤	ヒト第14番染色体のゲノム解析と候補T細胞白血病原因遺伝子の単離
	高 野 孝 和	Fe-W合金電着によるハイス鋼(SKH59)の表面改質

専 攻	氏 名	論 文 題 目
	竹 田 昌 央	Studies on the Syntheses and Reactions of Sulfoxide Derivatives bearing Several Heteroaromatics (複素環を有するスルホキシド類の合成と反応性に関する研究)
	福 島 和 彦	Studies on the Thermal Decomposition of Several Model Compounds Containing P and N Atoms and Their Effects on the Thermal Behavior of Cellulose (含リン、窒素モデル化合物の熱分解とセルロースの熱的挙動におけるそれらの影響に関する研究)
	A. B. M. OBAIDUL ISLAM	Surface Modification of GaAs and CVD Diamond Films by Layered-Compound GaS (層状半導体GaSによるガリウムGaAsとCVDダイヤモンド薄膜の表面修飾に関する研究)
	曹 世 勛	酸化物高温超伝導体ホウ素炭化物超伝導体の超伝導機構に関する研究
	陸 涓 明	手首局所カフによる無侵襲長時間連続血圧計測に関する基礎的研究

平成10年度大学院工学研究科（博士後期課程）博士論文審査合格者一覧

氏 名	博 士 論 文 題 目	授与年月日
北 林 行 雄	モダリティ変換手続きによる認知機構の検討	平成10年12月28日
三 村 富 雄	化学吸収法による火力発電所排ガス中の炭酸ガス分離に関する研究	平成11年3月24日
蛸 谷 松 江	リポフラビン誘導体の結晶構造と溶液中における自己集合に関する研究	平成11年3月24日

訂 正

第410号5ページの平成11年度文部省在外研究員（短期）派遣者の派遣期間は次のとおりでした。

- ・清水建次教授 11. 9. 1～11. 10. 31
- ・塩澤和章教授 11. 7. 26～11. 9. 25

お詫びして訂正します。

編 集 富山大学庶務部庶務課
富山市五福3190
印刷所 あけぼの企画株式会社
富山市住吉町1丁目5-18
電 話 (24)1755(代)